



沖縄国際大学
大学院案内



地域文化研究科
Regional Culture



地域産業研究科
Regional Business and
Economics



法学研究科
Law

「知的な冒険に挑戦し、より高度な専門知識を学んでみませんか」

沖縄国際大学大学院は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力並びに高度の能力を養うとともに、広く国際的な人材を育成することを目的としています。本大学院には、地域文化研究科、地域産業研究科、法学研究科の3つの研究科があり、それぞれの目的達成のため幅広い視野に立ち、各専門分野における研究能力を高め、高度専門職業人としての資質を磨き、地域社会や国際社会に貢献しうる人材の養成に取り組んでいます。

大きく変化する現代社会において、複雑化、多様化する多くの社会課題に対応すべく、大学の学部学科で修得した知識を基本として、自らが関心を持ち得意とする分野・領域を定め、より高度な専門知識やスキルを修得し社会問題解決のため還元することが求められています。

大学院では、自ら学問的関心を高め、問題点や課題を発見し、研究テーマを設定、そのテーマに沿った文献や資料を収集・分析・考察し、その結果を修士論文に纏め上げなければなりません。

そのためには、先行研究の取り組みやこれまで受け継がれてきた蓄積から多くの事象を学び、それらを踏まえ現状を適切に理解・分析し、未来に向けて課題を解決する力を身につけなければなりません。日々怠ることなく、謙虚に根気強く研究に勤しむ事が必要になってきます。実際の研究活動においては、目標設定から結論までの道のりを自らの力で成し遂げなければなりません。指導教員をはじめ多くの教員の助言・指導を仰ぎながら、自らの課題を多面的・複眼的に捉え、時には、志を同じくする仲間と交流し議論を深め、自らの考えをまとめる力やプレゼンテーションを行う技術、総合的な人間力を育むことが求められます。

沖縄国際大学大学院において、知的な冒険に挑戦し、より高度な専門知識やスキルを、本学の充実した学修環境の下で学んでみませんか。私たちは皆さんを歓迎し、皆さんを支援するために全力を尽くします。共に未来を築くため、一緒に学び、一緒に成長しましょう。

学長 安里 肇 Hajime ASATO

建学の精神 「真の自由と、自治の確立」

理念

沖縄国際大学は、沖縄の伝統文化と自然を大切に、人類の平和と共生を支える学術文化を創造する。
そして豊かな心で個性に富む人間を育み、地域の自立と国際社会の発展に寄与する。

本学の目的

学問研究の基本理念に基づき、広く社会に教育の場を提供し、人間性の涵養と科学的知識の啓発につとめ、理性的教養と歴史の進展に深い洞察力を保持する人材を育成する。

キーワード

「平和・共生」「個性・創造」 「自立・発展」

本学の使命

沖縄国際大学は沖縄の発展に貢献するために

(1) アジアの十字路に位置する沖縄のポテンシャルを活かし、万国津梁※の魁となる人材を育成します。

(2) 沖縄の個性を発揮させる研究・地域連携を行います。

※「万国津梁」：「世界の架け橋」という意。1458年に尚泰久王が鑄造させ、首里城正殿に掲げていたという鐘に刻まれた銘文の一部。

教育目標

(1) アジアを中心とする国際社会と対話し、理解し発信する能力を育成する教育をします。

(2) 「沖縄」を見つめ探求し、地域と協働する経験を蓄積させる教育をします。

(3) 夢を描き実現する力、環境変化に適応できる力、すなわち人間力を培う教育をします。

地域連携・研究目標

(1) 地域協働、産学官連携を推進します。

(2) 地域における生涯学習の拠点にします。

(3) 沖縄の発展に寄与する研究を推進します。

CONTENTS

学長あいさつ 1

沖縄国際大学大学院の理念 2

 地域文化研究科 3

南島文化専攻 5

英米言語文化専攻 11

人間福祉専攻 17

 地域産業研究科 23

地域産業専攻 25

 法学研究科 31

法律学専攻 33

大学院の入学から修了まで 39

教育・研究を支援する様々な制度 39

大学院で取得できる資格 40

入学金および諸学費 40

奨学金制度 41

研究環境 41

入学者選抜試験日程 42

研究科説明会 42



Graduate
School
of
Regional
Culture

大学院 地域文化 研究科

南島文化
専攻

英米言語
文化専攻

人間福祉
専攻

理念・目的

本研究科は、「広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力並びに高度の能力を養うとともに、広く国際的な人材を育成する」という本学大学院の目的を前提として、「高度専門職業人としての資質を磨き、地域社会や国際社会に貢献しうる人材を育成する」ことを目的としています。

この目的を実現するため、南島文化専攻、英米言語文化専攻、人間福祉専攻の3専攻での教育・研究を通じて、地域社会や国際社会、そしてそれぞれの社会が形成してきた文化の基底に存在する真理を探究するとともに、価値観が多様化する現代社会に柔軟に対応し、現代社会が直面する諸問題の解決に貢献しうる資質・能力の育成を図ります。



地域文化研究科
研究科長

藤波 潔
Kiyoshi Fujinami



先行き不透明な時代だから人間・社会・文化のあり方を探究する

地域文化研究科は1997（平成9）年に南島文化専攻、1999（平成11）年には英米言語文化専攻、そして2003（平成15）年には人間福祉専攻が開設されたことにより、3専攻課程によって構成され、複雑化する地域社会や国際社会の諸問題を適切に分析し、解決する能力を持った人材の育成を目指しています。地域文化研究科の修士生は、高度専門職業人や研究者として県内外で活躍しています。

本研究科では、多様な科目によって構成されるカリキュラムを編成しており、自らの専門領域のみならず、関連する他の専攻や領域の科目、また所定の手続きを経たうえで他大学大学院の科目も履修することができます。さらに、修士論文作成に向けては、指導教員によるきめ細やかな研究指導をおこないます。地域文化研究科の教員は、各自の研究活動で得られた経験と知見に基づき、皆さんの学びを支援していきます。

現代社会は変化が激しく、複雑さと不透明感をますます強めています。加えてAIをはじめとする科学技術の急速な進化は、社会と人間との関係を大きく変えるものと考えられています。しかし、社会を構成するのが個々の人間であるという事実は不動のものであり、人間がよりよく生きていくために、人間のあり方、人間が生み出した社会や文化のあり方を理解することは、これまで以上に重要になっていると考えます。

大学院での研究は、自らの問いに対して、さまざまな根拠や資料に基づき理論的に考察し、結論を得て、その結論の合理性・正当性を他者との議論を通じて高めていく作業です。多様な価値観を有する、多様な人間が自らの理性を働かせることでおこなわれる研究活動を通じて得られる結論に、唯一絶対の正解は存在しません。そこには無限の可能性が広がっています。こうした可能性に満ちた知的世界を、皆さんと一緒に共有できることを楽しみにしています。

地域文化研究科がめざすもの

高度な専門的職業人の養成

現代社会が直面する諸問題の解決には、学士課程教育だけでは十分対応できず、高度な専門知識・技術の修得が不可欠なこともあります。

本研究科では、学士課程で培った資質・能力を一層高め、社会の要請に積極的に対応しながら、教育、文化、行政、民間の各機関で活躍し、国際感覚を持って今後の社会発展に貢献できるような、高度な専門的職業人を養成していくことを目的としています。

また、より専門的・指導的な職務に対応できる資格（中高教諭専修免許や、公認心理師・臨床心理士受験資格など）を取得するための系統的教育、研究、実践の場を提供します。



生涯学習時代における 学習機会の提供

変化が激しく、不透明化している現代社会では、継続的な学びの更新が求められます。本研究科では最新の知見を学ぶ場を提供し、生涯にわたって学び、その成果を適切に生かすことのできる資質・能力を育成します。

専門職従事者には系統的な学習の機会を提供し、また、地域に根ざした文化へ興味を持ち研究を進めたいと希望する者には学びの場を開きながら、一人ひとりが充実した人生を送るための多様なニーズに本研究科は応えていきます。



文化事業推進のための 人材育成と地域活性化

本研究科の教員は、学識経験者として文化教育事業に積極的に関わり、また、修士生も各地域の文化教育事業に多数従事するなど、地域の文化事業の推進と、人材育成に深くかかわってきました。

本研究科では、これまでの実績を踏まえ、地域振興に貢献できる専門家を養成し、文化教育事業を通して地域の活性化を推進したいと思います。

地域研究の推進

本研究科は、生活の土台である地域に根ざした研究・教育を重視しています。それぞれの専攻の理念を実現するために、地域社会と関わりながら、南島地域文化、英米言語文化、社会福祉や臨床心理の研究を一層推進しています。また、今後の地域発展に貢献するためにも、様々な課題に取り組んでいきます。

教育研究の国際化

南島地域研究には東アジア、東南アジア地域との交流が必要です。また、英米言語文化の研究は、英米を中心とした欧米諸国にとどまらず、広く英語圏諸国との国際研究へとつながります。加えて日本語教育学分野の研究も盛んになってきており、日本語教育の現場で働いている方が在籍することで、現場と日本語教育学分野が教育研究を通じてその関係を広げています。人間福祉専攻の研究においても、諸外国の福祉現状の比較研究に発展しています。

また、本研究科では、国際交流を拡大してきました。本学協定校がある韓国、台湾、中国、フランス、オーストラリア等の諸外国の大学からも交流希望が寄せられています。

本研究科は、多様な文化や背景を持つ者がともに学び、国際的な視点で課題に取り組み、新たな知見を見出せるような教育研究の国際化推進のために、一層努力していきたいと考えています。



南島の地域特性

地域とは、われわれが生活を共にしながら生きている、ある程度自然的な地理的社会空間であり、そこには独自の風土、社会、文化、歴史が存在します。それはわれわれの生活と不離一体のものであり、地域住民に共通するエトスの源泉となっています。地域は国家形成に先立つものです。地域文化研究が地域住民の発展に貢献することはいうまでもありません。

南島文化専攻は、南島地域の文化を教育研究の対象としています。南島地域とは、琉球文化圏を構成する南西諸島の島嶼地域、すなわち屋久島・種子島と奄美諸島の間のトカラ海峡に東西に引かれた生物地理学上の境界線である渡瀬線から、八重山諸島の一つ与那国島と台湾の間に引かれた南先島諸島線までの間の地域をさします。

南島文化は琉球文化の別称でもあります。この地域は、台湾・中国・韓国・朝鮮・フィリピンと隣接していることから、東アジアおよび東南アジアとの文化交流地点になっていること、琉球王国の形成発展を軸に独自の歴史をたどってきたこと、それ故にこの地域の文化が日本の中でも独自性を有していることは広く知られています。

文化の伝播ルート、地域的個別形態、変容過程の分析

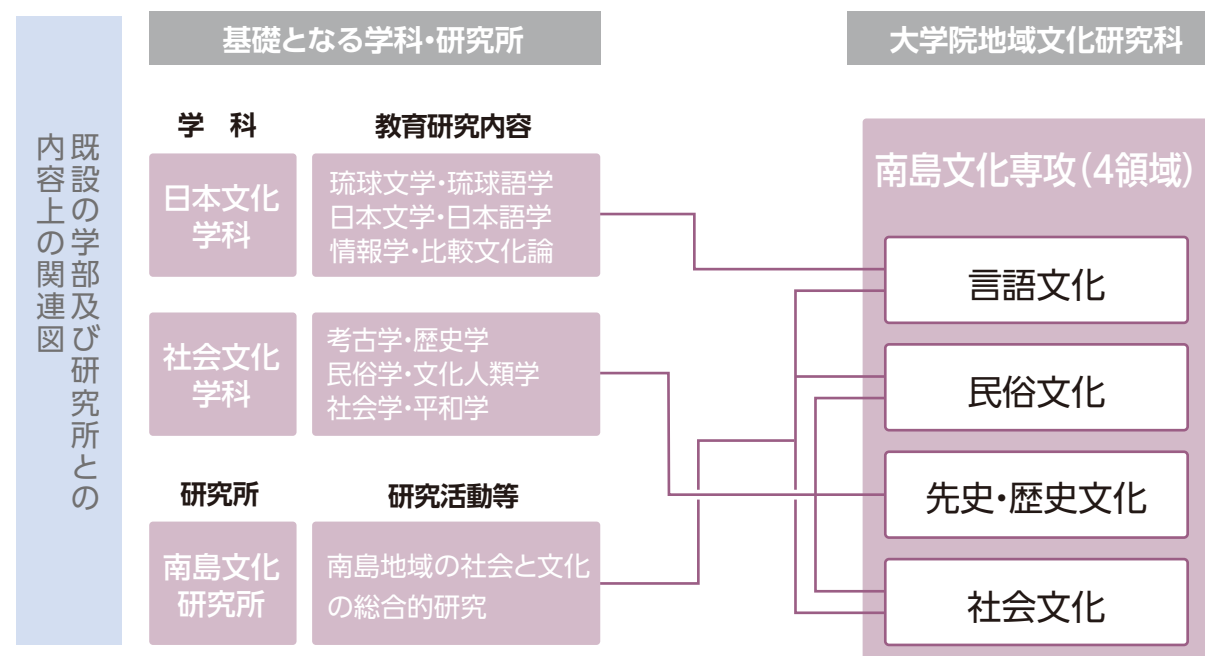
この地域を研究することは、アジア文化の伝播ルート、地域的個別形態、変容過程を明らかにすることにつながります。この研究成果が南島地域だけでなく、日本の文化や社会の理解に貢献できることは共通した認識といえましょう。文化の正しい理解は、経済活動を含め、あらゆる地域活動の基礎をなします。文化の相互理解は、国際交流の基礎でもあることから、研究成果は沖縄および日本と周辺諸国との交流に役立ち、地域活性化にもつながっていきます。

研究対象の領域と地域

南島地域は周辺に東アジア、東南アジア、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアなどの諸地域を有することから、地域文化も多様な広がりを示すことになります。南島文化専攻では言語文化、民俗文化、先史・歴史文化、社会文化の4領域を中心に教育課程が体系化されており、南島地域文化を系統的に研究することができます。

基礎となる学科・研究所

南島文化専攻は、総合文化学部の日本文化学科、社会文化学科を基礎として設置されています。また南島文化研究所は、本研究科を支える重要な関係機関です。



教育課程の構成

教育課程は大別して言語文化、民俗文化、先史・歴史文化、社会文化の4領域から構成されています。

言語文化

言語文化領域では、南島地域の言語と文学を中心にして、日本の古典文学や近現代文学、さらには国語教育学も研究対象とします。各研究対象についてより深い考察を促す授業を提供するとともに、教員の専修免許などの取得や一般社会人の再教育などにも対応した教育課程となっています。

民俗文化

民俗文化領域の主たる研究対象は南島地域ですが、内容的に東アジア、東南アジアなどの周辺地域との関連性が重要になってきます。教育課程や講義内容も、南島地域の民俗文化を深く掘り下げると同時に、周辺地域への広がりを持ったものになっています。

先史・歴史文化

先史・歴史文化領域での一つの柱をなす考古学は、南島地域の先史文化を研究対象としますが、東アジア、東南アジアなどの周辺地域との比較研究を重視します。もう一つの柱である南島史学は、近世の古文書講読および20世紀における資料の伝来の把握を重視し、南島地域史への理解を深めます。

社会文化

社会文化領域は、社会学を中心として、南島地域の社会関係の特質、社会構造の維持メカニズムとしての文化問題などを取り上げていきます。この領域は南島社会の基本構造、人間生成、現実の社会問題処理の側面も含みます。

沖縄国際大学大学院
南島文化専攻 3つのポリシー

●ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

本研究科本専攻における所定の教育課程を終え、〈修士〉を授与される大学院生は、以下のような人物です。

1. 南島文化または周辺地域の文化について専門的な知識を身につけるとともに、多様な観点から見る力を培った人物。
2. 南島文化において研究すべき課題を自ら発見し、主体性と協調性をもって解決できる力を身につけた人物。
3. 南島文化の価値を周辺地域または世界へと広めることを社会的な責任として自覚し、国際的な立場から発信しようとする人物。
4. 南島文化および周辺地域に生きる地域住民に共感し、南島地域および周辺地域の発展に貢献できる人物。

●カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

本研究科本専攻では以下のような教育課程を編成します。

1. 南島文化についての専門的な知識を系統的に深めてその課題を見出し、その解決に向けて指導教員と対話的な指導を行う特殊研究科目の提供。
2. 南島文化について、幅広い分野の一流の講師陣が専門的な知識によって対話的な指導を行う特論科目の提供。
3. 自らの課題を公の場で発表し、多くの意見を聞くことによって、学術的な精度を高めると同時に、修士論文執筆に向けた意欲を高める中間発表会の開催。

●アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

本研究科本専攻が入学者として求めるのは、以下のような人物です。

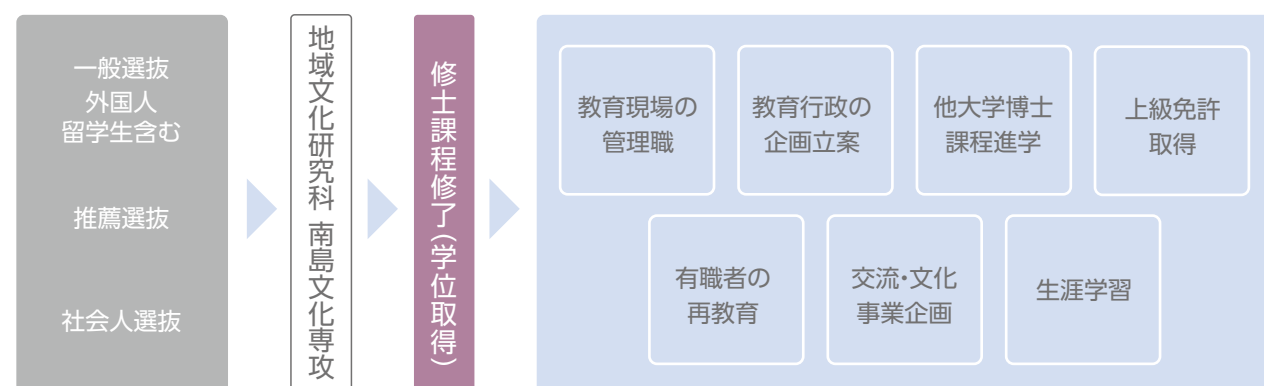
1. 言語文化領域においては、南島地域の言語および文学に強い関心を有する人物。または、日本の古典文学や近現代文学、国語教育学に強い関心を有する人物。
2. 民俗文化領域においては、南島地域の民俗文化に強い関心を有する人物。または、南島地域の周辺地域である東アジア・東南アジア地域の民俗文化に強い関心を有する人物。
3. 先史・歴史文化領域においては、南島地域の先史文化あるいは歴史文化に強い関心を有する人物。または、南島地域の周辺地域である東アジア・東南アジアとの関係史に強い関心を有する人物。
4. 社会文化領域においては、南島地域の社会関係の特質、南島社会における文化問題に強い関心を有する人物。または、南島社会の抱える現代的な問題に深い関心を有する人物。



専攻内容



修了後の進路



院生からのメッセージ

南島文化専攻
言語文化領域
平識 魁里
へしき かいり

私は大学の4年間で『万葉集』に出会い、その中の歌人である「額田王」に魅かれました。卒業論文でも「額田王」について研究しましたが、良い成果が得られず、大学院でより『万葉集』を学び「額田王」を知りたいと考え、大学院に入学しました。大学院では、近代という視点で『万葉集』を考え、「額田王」を分析して、修士論文に取り組んでいます。

大学院では、自分自身の研究領域と南島文化専攻本来の講義内容と関連付けながら、講義を進めることができます。また、講義や東御回りの聖地巡りや軽便鉄道跡巡りなどのフィールドワークでの経験は、沖縄について更なる関心が生まれ、沖縄の現状について考えるきっかけとなりました。

大学院は研究発表や研究会参加の機会なども多く、修士論文に向けてステップアップができます。図書館も含めて、資料や文献が充実しているので、研究の悩みのヒントがすぐに見つかります。

修士課程修了後は、博士課程に進みたいと考えているため、大学院での機会と施設をしっかりと活用しながら日々研究に励んでいきたいと思っています。

南島文化専攻
先史・歴史文化領域
知念 海
ちねん かい

私は、学部生の頃から本学の考古・先史学ゼミで考古学を学んできました。しかし、真剣に考古学を学んでいたといえるような学生ではなかったと思います。それでも、ゼミの実習や講義などを通して、次第に考古学や埋蔵文化財の仕事に将来就きたいと考えるようになり、もっと考古学について学びたいと考えたため、本学大学院への進学を志望しました。

本学大学院への入学後は、考古学についてはもちろんのこと、多くの講義で先生とマンツーマンや少人数で学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごすことができます。本学の講義の多くは夜間に組まれているため、日中の時間は学部生の講義にTAとして参加したり、考古ゼミの実習に学部生と一緒に参加したりしながら、考古学や発掘調査について改めて学ぶことができます。また、本学図書館や考古学・歴史学研究室にある膨大な数の蔵書、沖縄国際大学考古学研究室が収蔵している遺物なども研究に活用ことができ、本学の環境にとっても満足しています。

本学修了後は、本学で学んだことを糧に研究を継続していき、地域の多くの方々が考古学や埋蔵文化財に興味を持つきっかけを作れるような埋蔵文化財職員を目指したいです。

2024(令和6)年度
修了生修士論文
テーマ一覧

- 沖縄中南部地域共通語の格助詞の体系的記述
- 世代別の沖縄方言再話にみられる言語表現の特徴について
- 沖縄県の内水面漁業と食文化 — 比謝川の事例から —
- 沖縄闘牛の文化的価値の探求 — 闘牛育成と振興に向けた取り組み —

南島文化専攻 専任教員紹介

秋山 道宏 准教授

あきやま みちひろ

- 専門分野**　社会学、沖縄戦後史、平和研究
- 担当科目**　南島社会特論Ⅰ・Ⅱ
- 主な著書・論文**
- ・「南風原町」および「伊江村」 続・沖縄戦を知る事典・戦場になった町や村　共著/吉川弘文館/2024年
- ・「復帰と反復帰」ほか　大学で学ぶ沖縄の歴史　編著/吉川弘文館/2023年
- ・基地と復帰をめぐる激動　沖縄県史各論編第7巻 現代　共著/沖縄県教育委員会/2022年
- ・日本復帰後沖縄の「豊かさ」をとらえる視座：社会経済変容と保守系総合雑誌に着目して 戦後沖縄の政治と社会：「保守」と「革新」の歴史的位相　共著/吉田書店/2022年
- ・基地社会・沖縄と「島ぐるみ」の運動－B52撤去運動から県益擁護運動へ　単著/八潮社/2019年

安 志那 准教授

あん　じな

- 専門分野**　「満洲」移民文学、日韓比較文学、メディア研究
- 担当科目**　日本近現代文学特論ⅠA・ⅠB
- 主な著書・論文**
- ・開拓地帯　翻訳/召命出版/2022年
- ・日韓ハンセン病文学における女性と「隔離」研究序説　アジア文化研究　58輯　（論文）単著/嘉泉大学アジア文化研究所/2022年
- ・ある日、ロマンスファンタジーを読み始める　単著/イウム出版/2021年
- ・長女たち　翻訳/イウム出版/2020年
- ・帝国の文学とイデオロギー　―満洲移民の国策文学　単著/世織書房/2016年

石垣 直 教授

いしがき　なおき

- 専門分野**　文化人類学、地域研究(台湾／沖縄)
- 担当科目**　東アジア文化人類学特論ⅠA・ⅠB、南島民俗文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ
- 主な著書・論文**
- ・現代台湾原住社会における民族文化教育(Ⅰ)・(Ⅱ)　台湾原住民研究26号・27号　（論文）単著/日本順益台湾原住民研究会/2022年・2023年
- ・現代台湾における原住民族教育政策：族語教育、部落学校、実践教育の事例を中心に 台湾原住民研究24号　（論文）単著/日本順益台湾原住民研究会/2020年
- ・戦後沖縄における祝慶復興：『具志堅以徳収集文書』他にみる台北市孔廟からの影響　南島文化43号（論文）単著/沖縄国際大学南島文化研究所/2020年
- ・戦後沖縄における久米・至聖廟再建と中華民国：1975年前後の協力・寄贈品とその政治・文化的背景への注目から　南島文化42号（論文）単著/沖縄国際大学南島文化研究所/2020年
- ・琉球・沖縄における祝慶の歴史と現在：久米・至聖廟の事例を中心に　南島文化41号（論文）単著/沖縄国際大学南島文化研究所/2019年

小川 護 教授

おがわ　まもる

- 専門分野**　農業地理学、地理学、地図学
- 担当科目**　南島地理学特論Ⅰ・Ⅱ
- 主な著書・論文**
- ・沖縄県・東京都・大阪府中央卸売市場を中心とする野菜類の集出荷圏に関する地域構造　南島文化第47号　（論文）単著/沖縄国際大学南島文化研究所/2025年
- ・日本復帰以降の沖縄県における地域農業の変容　地域研究第63号（論文）単著/立正地理学会/2024年
- ・奄美大島におけるサトウキビ生産の地域特性　奄美大島調査報告(地域研究シリーズN048)（論文）単著/沖縄国際大学南島文化研究所/2024年
- ・1964年と2020年　くらべて楽しむ地図帳　（論文）共著/山川出版社/2020年
- ・沖縄本島北部の共同売店の立地と経営形態の変化　共同売店の新たなかたちを求めて（南島文化研究所蔵書4）（論文）単著/東洋企画/2020年

我部 大和 准教授

がぶ　ひろちか

- 専門分野**　琉球芸能、琉球文学
- 担当科目**　南島文学特論ⅠA
- 主な著書・論文**
- ・冠船芸能における「老人老女」に関する考察　―演戯故事での漢訳と「老人申上候意趣」の記述比較を基に　沖縄国際大学日本語日本文学研究　第29巻1号　（論文）単著／沖縄国際大学日本語日本文学会／2024年
- ・琉球進貢使節が観賞した灯戯・烟火・火戯に関する一考察　―嘉慶二十三年の事例などを手がかりに―　藝薈　27号（論文）単著／藝能学会／2021年
- ・琉歌の創作からみえるコロナ禍における大学生たちの思い：「コロナ歌」に詠われた「コロナ」を中心に　沖縄国際大学日本語日本文学研究　第28巻1号　（論文）単著／沖縄国際大学日本語日本文学会／2021年
- ・「冊封琉球国記略」に記された組踊「銘劝子」に関する考察：「演戯故事」との内容比較を中心に― 沖縄芸術の科学　第32号（論文）単著／沖縄県立芸術大学附属研究所／2020年
- ・李剛著　清代の満文檔案と中琉歴史関係研究　沖縄史料編集紀要　翻訳／沖縄県教育庁文化財課史料編集班／2020年

※共著者・編著者名・編集（監修）団体名・収録ページは編集の都合上省略しております。

崎浜 靖 教授

さきはま　やすし

- 専門分野**　人文地理学、歴史地理学、社会科教育
- 担当科目**　南島民俗文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ、地理教育学特論
- 主な著書・論文**
- ・資料　下里泰徳編「宮古マラリア追憶記」（その3）　沖縄国際大学南島文化研究所紀要『南島文化』第46号　共著/沖縄国際大学南島文化研究所/2024年
- ・「過去」が「現在」に重くのしかかる場所―戦後沖縄の空間構成―　『沖縄1972年』考　返還・復帰・再併合　共著/Ryukyuu企画(琉球館)/2023年
- ・南洋群島　豊見城市史 第4巻 移民編(本編)　共著/豊見城市教育委員会/2016年
- ・農村漁村とその生活、宮古島、八重山諸島　日本の地誌10 九州・沖縄　共著/朝倉書店/2012年
- ・普天間飛行場の旧集落とその耕地　地図中心　通巻476号　共著/(財)日本地図センター/2012年

-

下地 賀代子 教授

しもじ　かよこ

- 専門分野**　日本語学、琉球語学、言語継承
- 担当科目**　日本語学特論、南島方言学特論Ⅰ・Ⅱ、南島言語文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ
- 主な著書・論文**
- ・多良間島におけるオランダ商船の伝承とその「絵本」化　―オーラル・ヒストリー調査と多良間島方言テキストの記述　『沖縄国際大学　日本語日本文学研究』28(1)　単著/2024年
- ・「ヤイマヤマトゥムニ」の語彙の特徴　『南島文化』(45)　共著/沖縄国際大学南島文化研究所/2022年
- ・『カンナマルクールクの神(カンナマルクールクぬ かむ)』　みる・よむ・きく南の島ことば絵本―多良間島―　共著/ひつじ書房/2021年
- ・琉球語継承活動の現状と課題　― 先行事例の分析を通して ―　『沖縄国際大学日本語日本文学研究』24(2)　単著/2020年
- ・シュダツズマン　パイル　ーたらまふつ副読本―　監修/多良間村教育委員会 /2019年

新里 貴之 教授

しんざと　たかゆき

- 専門分野**　考古学
- 担当科目**　南島先史文化特論Ⅰ・Ⅱ、南島先史文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ
- 主な著書・論文**
- ・琉球列島先史時代葬墓制からみた埋葬習俗における性差　『島世界の葬墓制：琉球・海域アジア・オセアニア』　（論文）単著/雄山閣/2024年
- ・「陶器皿頭四束　但内貳ン破損」奄美・沖縄のビービーどんぶり　『奄美大島調査報告書』地域研究シリーズNo.48　（論文）単著/沖縄国際大学南島文化研究所/2024年
- ・トカラ列島・宮水流遺跡　『考古学ジャーナル』No.784　（論文）単著/ニューサイエンス社/2023年
- ・トカラ列島・横当島調査追補　『南島考古』第42号（論文）単著/沖縄考古学会/2023年
- ・南島先史時代のヒスイ製玉類と非ヒスイ製玉類　『社会文化研究』第13巻第1号　（論文）共著/沖縄国際大学社会文化学科/2023年

田場 裕規 教授

たば　ゆうき

- 専門分野**　日本古典文学、国語教育学、琉球沖縄のことばの教育、琉球芸能身体論
- 担当科目**　日本言語文化特殊講義Ⅰ・Ⅱ、日本古典文学特論ⅠA・ⅡB、南島芸能特論Ⅰ・Ⅱ
- 主な著書・論文**
- ・『沖縄を求めて沖縄を生きる　大城立裕追悼』(分担執筆)　「沖縄芝居実験劇場の挑戦―『嵐花一朝薫と朝敏―』をめぐって、」共著/インパクト出版会/2022年
- ・憂鬱なことばの教育―『琉球板本六論衍義大意』をめぐって　沖縄国際大学日本語日本文学研究第26巻第2号（論文）単著/沖縄国際大学日本語日本文学会/2022年
- ・『中学校・高等学校　文学創作の学習指導　実践史をふまえて（ことばの授業づくりハンドブック）』分担執筆「沖縄における俳句の授業づくり」共著/淡水社/2018年
- ・意匠としての文字―「人相鴨」考―　沖縄国際大学日本語日本文学研究第22号第1号（論文）単著/沖縄国際大学日本語日本文学会/2017年

月野 楓子 准教授

つきの　ふうこ

- 専門分野**　沖縄移民研究、国際文化学、ラテンアメリカ地域研究
- 担当科目**　国際社会学特論
- 主な著書・論文**
- ・大学で学ぶ沖縄の歴史　共著/吉川弘文館/2023年
- ・よりどころの形成史―アルゼンチンの沖縄移民社会と在亜沖縄県人連合会の設立―　単著/春風社/2022年
- ・中南米地域の邦字新聞を活用した日本人移住に関する諸研究　―『らぶらた報知』の創刊と『在亜沖縄県人連合会』の設立―　研究紀要　15号　（論文）単著/JICA横浜海外移住資料館/2021年
- ・ラテンアメリカ文化事典　共著/丸善出版/2021年
- ・『呼奇期成同盟にみる第二次世界大戦直後の在亜邦人社会―1950年代初頭までを中心に― 移民研究年報　24号　　（論文）単著/日本移民学会/2018年

桃原 一彦 教授

とうばる　かずひこ

- 専門分野**　都市社会学、ポストコロニアル研究
- 担当科目**　社会学研究法特論、比較社会文化特論Ⅰ、比較社会文化特論Ⅱ、南島社会文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ
- 主な著書・論文**
- ・「ボジショナリティ分析で何が分かるのか　―「沖縄の基地問題」をめぐる「受益圏／受苦圏」概念を手がかりとして、他2編　日本社会とボジショナリティ―沖縄と日本との関係、多文化社会化、ジェンダーの領域からみえるもの　共著/明石書店/2024年
- ・「沖縄／大和」という境界　―沖縄から日本への問いかけ　沖縄思想のラディックス　共著/未来社/2017年
- ・沖縄の「不和」を横領する支配の構図　―「県外移設論」批判をめぐって、　解放社会学研究　第29号　（論文）単著/日本解放社会学会/2016年
- ・『「井戸」の底でつながるスタンディング・アーミー』他7編　沖縄、脱植民地への胎動　共著/未来社/2014年
- ・『震災後の軍隊とメアの水脈』他3編　闘争する境界　共著/未来社/2012年

桃原 千英子 教授

とうばる　ちえこ

- 専門分野**　国語科教育学　**担当科目**　国語教育学特論Ⅰ・Ⅱ
- 主な著書・論文**
- ・空所に着目した教材分析(7)　複数の問いの組み合わせ(8)　中学校・高等学校国語科　その問いは、文学の授業をデザインする　共著/明治図書/2020年
- ・国語科の学習過程（Ⅲ―6）　『新たな時代の学びを創る　中学校・高等学校国語科教育研究』　共著/東洋館出版社/2019年
- ・小説の比べ読みに関する言語活動の提示形式の比較と学習展開の実態　『国語科教科書における言語活動例の提示形式と学習展開の実態に関する研究』　（論文）単著/教科書研究センター/2018年
- ・中学校における「読みの交流」の実践　公開講座ブックレット⑨『対話のある国語科授業づくり』　（論文）単著/全国大学国語教育学会/2018年
- ・マンガを活用した小説の時制理解と指導の改善　『国語科学習デザイン』　（論文）単著/国語科学習デザイン学会/2018年

西岡 敏 教授

にしおか　さとし

- 専門分野**　琉球語学、琉球文学
- 担当科目**　南島文学特論ⅡA・ⅡB、南島言語文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ
- 主な著書・論文**
- ・琉球芸能の詞章のP音考　武蔵野文学　63　（論文）単著/武蔵野書院/2015年
- ・琉球語―「シマ」ごとに異なる方言　日本の危機言語　（論文）単著/北海道大学出版会/2011年
- ・宮古方言における敬語法の記述　日本語研究の12章　（論文）単著/明治書院/2010年
- ・琉球語の危機と継承　月刊 言語　2009年7月号　（論文）単著/大修館書店/2009年
- ・沖縄語の入門　たのしいウチナーグチ(CD付改訂版)　共著/白水社/2006年

比嘉 理麻 准教授

ひが　りま

- 専門分野**　文化人類学、人と動物の関係論
- 担当科目**　東アジア文化人類学特論Ⅲ
- 主な著書・論文**
- ・「沖縄の基地反対運動と命のアナキズム―軍事化に抗する生き物たちの〈生〉の理論」　文化人類学89(1)　単著/日本文化人類学会/2024年
- ・これは、政治じゃない―く生き方―としての基地反対運動と命の民主主義　文化人類学　87(1)　単著/日本文化人類学会/2022年
- ・動物嫌悪と肉食主義の共生成―いのちと再び出違い直すために　現代思想　50(7)　（論文）単著/青土社/2022年
- ・市場から食卓へ―食の生命倫理　食の世界を生きる―食の人類学への招待　共著/時潮社/2021年
- ・沖縄の人とブター―産業社会における人と動物の民族誌　単著/京都大学学術出版会/2015年

深澤 秋人 教授

ふかざわ　あきと

- 専門分野**　近世琉球の対外関係史、尚家文書の史料論
- 担当科目**　南島歴史文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ、南島史学特論ⅠA・ⅠB
- 主な著書・論文**
- ・尚家文書の全体像と現状　―東京尚家邸の目録と史料群の伝来―　档案修復と歴史資料的数字化―第六屆東亜史料研究編纂機構聯席会議論文集　（論文）単著/社会科学文献出版社/2020年
- ・鹿児島琉球館における「役所」の機能　―尚家文書三四一号を中心に―　『国史学』第219号　（論文）単著/国史学会/2016年
- ・東京琉球館役所の人々と運営―「役所」との関係を中心に―　『日本歴史』第797号　（論文）単著/吉川弘文館/2014年
- ・近世琉球中国交流史の研究―居留地・組織体・海域―　単著／榕樹書林／2011年
- ・近世琉球における綿子の生産　―久米島への供給体制を中心に―　『近世地域史フォーラムⅠ 列島史の南と北』　（論文）単著/吉川弘文館/2006年

藤波 潔 教授

ふじなみ　きよし

- 専門分野**　歴史学、歴史教育、歴史史料論
- 担当科目**　南島社会文化特殊研究Ⅰ、植民地社会特論Ⅰ、南島歴史文化特殊研究Ⅰ
- 主な著書・論文**

- ・「歴史総合」担当教員の資質向上と能力育成　―歴史資料に対する習熟の観点から―　総合学術研究紀要　第21巻第1号　（論文）単著/沖縄国際大学総合学術学会/2019年
- ・ブライズ調査団との対峙　宜野湾市史第8巻戦後資料編Ⅱ　伊佐浜の土地闘争(資料編)　共著/宜野湾市/2019年
- ・記憶と継承　記憶・保存・活用　世変わりの後で復帰40年を考える　共著/編集工房東洋企画/2013年
- ・日本による領台直後期の台湾「外交」をめぐる問題　―その制度的枠組みと「外交」問題に関する基礎的整理―　沖縄国際大学社会文化研究第7巻第1号　（論文）単著/沖縄国際大学社会文化学会/2004年
- ・イギリスの台湾産樟脳貿易に対する天津条約適用問題　―1868～1870年のイギリス商社所有の樟脳に対する襲撃事件を事例として―　沖縄国際大学社会文化研究第6巻第1号　（論文）単著/沖縄国際大学社会文化学会/2003年

宮城 弘樹 教授

みやぎ　ひろき

- 専門分野**　沖縄考古学、文化財保護行政
- 担当科目**　考古学特論Ⅰ・Ⅱ、文化財保存特論、南島先史文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ
- 主な著書・論文**

- ・大学で学ぶ沖縄の歴史　共著/吉川弘文館/2023年
- ・墓からみた近世社会　近世大名墓の新視点2　近世大名の葬制と社会　（論文）単著/雄山閣/2022年
- ・琉球の考古学　単著/敬文舎/2022年
- ・南島・沖縄　日本考古学・最前線　（論文）単著/雄山閣/2018年
- ・南西諸島の水中文化遺産―青い海に沈んだ歴史のカケラ　共著/ボーダーインク/2014年

村上 陽子 教授

むらかみ　ようこ

- 専門分野**　沖縄・日本近現代文学
- 担当科目**　日本近現代文学特論ⅡA・ⅡB、日本言語文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ
- 主な著書・論文**

- ・イクサの記憶を生きる身体―崎山多美「うんじゅが、ナサキ」論―　沖縄国際大学日本語日本文学研究　25巻1号（論文）単著／沖縄国際大学日本語日本文学会／2021年
- ・身体を生きることの痛みに向けて　―目取真俊「面影と連れて」論―　『東アジアの中の戦後日本』　共著/臨川書店/2018年
- ・傍観者の立場の揺らぎ　―井伏鱒二「かぎつばた」論―　『日本文学』第66巻　第11号　単著/日本文学協会/2017年
- ・沖縄・海洋博の爪痕　―大城立裕『華々しき宴のあと』にめぐって―　『昭和文学研究』第75集　単著/昭和文学会/2017年
- ・『出来事の残響　―原爆文学と沖縄文学』　単著/インパクト出版会/2015年



異文化接触の経験を学術教育研究に活用

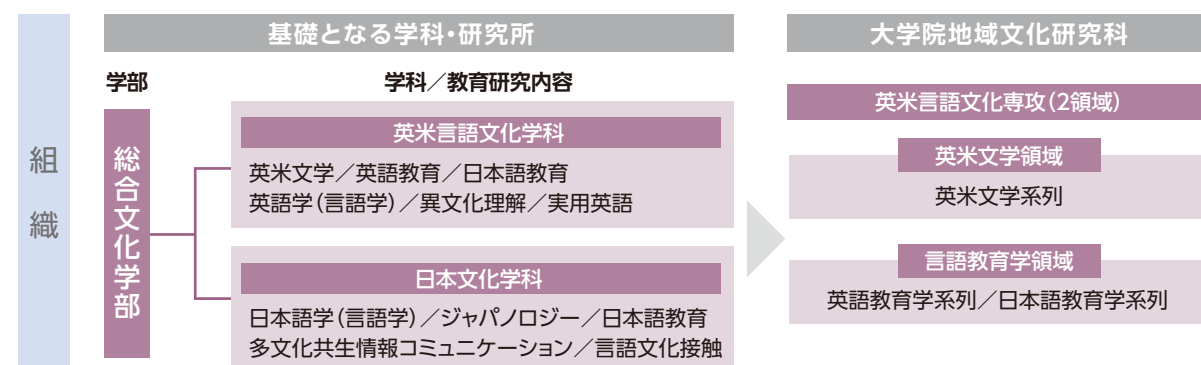
琉球王国時代から、沖縄はヨーロッパやアメリカから渡来した人々との接触を体験してきました。さらに沖縄は、戦後半世紀にわたる南北アメリカとの異文化接触の経験を持っています。このような国際交流の歴史を通して、沖縄には異文化を摂取する意識の面でも、また、異文化接触の実際においても、広く開かれた視野と蓄積されたノウハウがあります。日本の最南端に位置しながらも、沖縄が有する実にユニークかつ有利な文化的特性を、学術教育研究に活用することは極めて有意義であると考えます。

英米言語文化専攻とは

英米言語文化専攻は、地域文化研究科の一専攻として設置されました。本専攻は、英米文学領域と言語教育学領域の二つの領域から成っています。さらに言語教育学領域には、英語教育関係者の養成と有職者の再教育を目標の一つとする英語教育学系列と、国内外における日本語教育関係者の養成にあたる日本語教育学系列があります。いずれの領域も、地域に軸足を置きながら、それぞれの学術教育研究の推進を意図するものです。

基礎となる学科・研究所

英米言語文化専攻は、総合文化学部の英米言語文化学科、日本文化学科を基礎として設置されています。また南島文化研究所は本専攻と関連する施設です。



沖縄国際大学大学院 英米言語文化専攻 3つのポリシー

英米言語文化専攻の教育目標は、①実践的な英語運用力と確かな日本語力、②様々な文化的背景の理解に基づく多文化共生社会を実現していく能力、③専門分野における知識や経験に加えて、他分野の知識や経験を取り入れることのできる応用力をバランスよく備えた人材の育成です。そのために、本専攻では以下のような3つのポリシーを策定しています。

●ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

所定の単位を修得し、修士論文あるいは特定課題研究の審査に合格した者に対し、以下の資質を有するものと判断し、＜修士(文学又は言語教育学)＞の学位を与えます。

1. 実社会で通用する高度な英語力および日本語力を有し、自らの考えを発信する能力
2. 異文化理解に基づく多文化共生を可能とし、グローバル化する国際社会に対応できる能力
3. 他領域を横断した知識を備え、自らの専門分野で修得した学問や技術を社会に還元できる応用力

●カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

本専攻では、知識・経験・技術を兼ね備えた人材育成を遂行するため、以下の方針に基づいた教育課程を編成しています。

1. 研究分野を英米文学、英語教育学および日本語教育学に専門化すると同時に、他領域横断的な履修を可能とするカリキュラム編成
2. 学際的な研究を推進するため、専攻内共通科目として、特定地域の文化、多民族文化、リテラシーおよびメディア教育に関する講義の提供
3. 学問的交流を深めるため、国内外の大学・研究所の研究者による夏期集中講義の提供
4. 英語コミュニケーション能力を磨くため、英語による授業の提供
5. 英語教員向けの専修免許状に必要な教育科目群の提供
6. 社会人のために便宜を図り、講義を夕方から夜間にかけて開講

●アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

本専攻の教育目標を理解し、幅広い視野と柔軟な思考を備えた受験者を広く国内外から求めます。

1. 言語文化・言語教育に関して強い学習意欲を持つ人物
2. グローバル社会に対応できる専門性の獲得を目指す人物
3. 教育機関における実践的・学術的指導者を目指す人物

教育課程の構成

英米文学領域

英米文学領域は、英米を中心とした英語圏の小説・詩・演劇について研究します。また、英語という言語を軸とした英米文化についての科目群も開設しています。

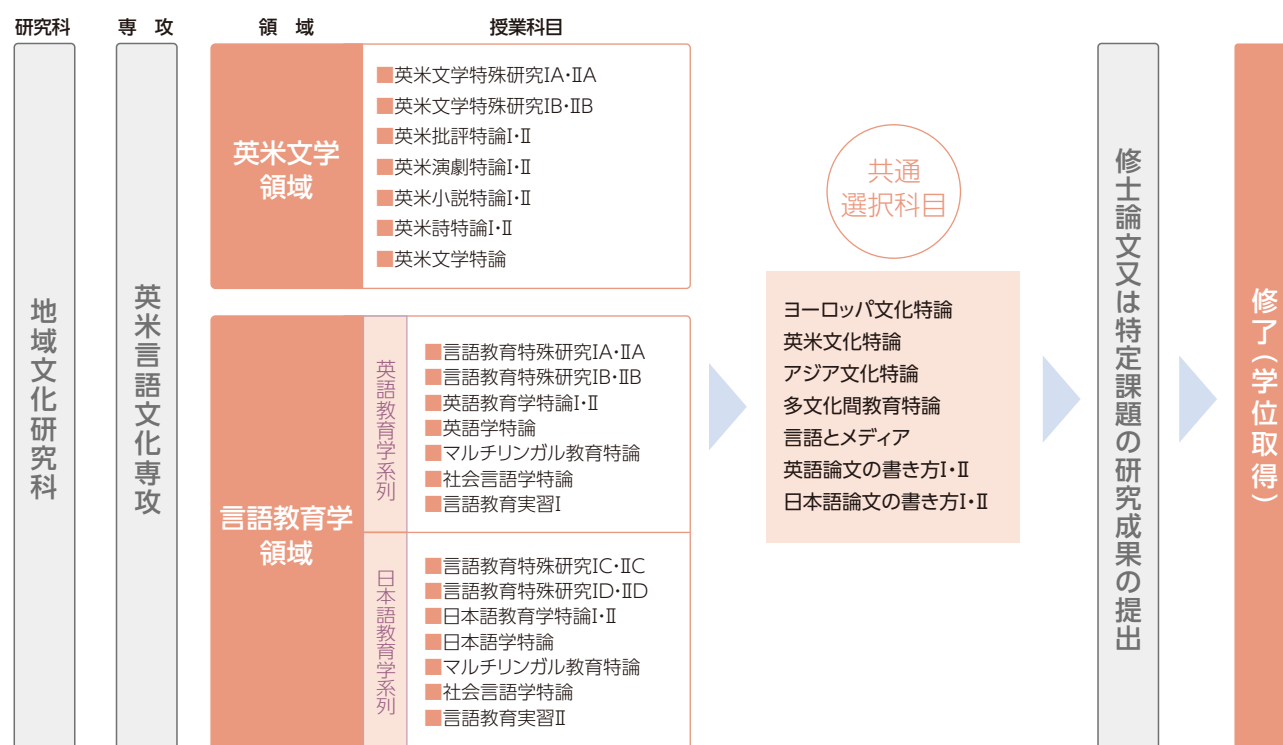
言語教育学領域

言語教育学領域は、言語・文化・教育・社会との関連性を踏まえながら、英語教育および日本語教育について研究します。また、言語教育実習やマルチリンガル教育など、実践的且つ多様な視点から言語教育を考えていきます。

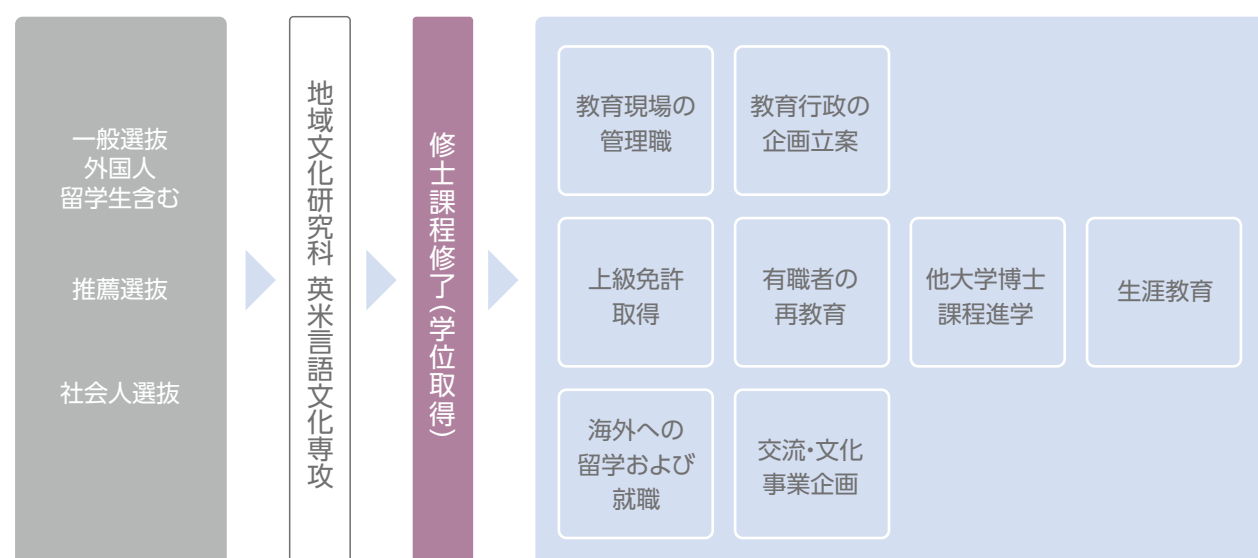




専攻内容



修了後の進路



院生からのメッセージ



英米言語文化専攻
言語教育学領域 日本語教育学系列

新垣 望
あらかき のぞみ

観光が主な産業の沖縄では、宿泊業に従事する外国人が今後も増加することが見込まれています。私は本学の日本文化学科卒業後、県内ホテルで約8年間働く中で、宿泊業を目指す外国人への支援が十分でないことに気づきました。能力があっても言葉の壁で採用されなかったり、力を発揮できない姿をみて、この課題を解決したいという思いが日本語教育を専門的に学ぶきっかけとなりました。

大学院での学びは想像以上に充実しています。講義は少人数で、先生方が一人ひとりの関心や疑問に熱心に向き合ってくれます。緊張しがちな私でも質問しやすい雰囲気、自分の意見を自由に発言でき、それを真摯に受け止めてもらえる環境のありがたみを日々感じています。また、社会経験豊富な学友との交流は、「こんな見方もあるんだ」と視野が広がる瞬間が多くあります。互いの経験を共有し、刺激し合える仲間との出会いも大きな収穫です。

修了後は、日本語教育の知識と宿泊業界での経験を活かし、宿泊業界で働く外国人の方々が自分の能力を十分に発揮できるよう支援したいと考えています。日本語教育と宿泊業界をつなぐ架け橋となり、一人でも多くの人が言葉の壁を越えて活躍できるようサポートする人材になることが私の目標です。



英米言語文化専攻
言語教育学領域 日本語教育学系列

何 泳賢
カ エイケン

私は香港の大学で日本研究を専攻し、卒業後、香港の小中学校で日本語教育に携わってきました。大学時代に1年間の日本留学を経験しましたが、知識不足を実感し、さらなる学びを求めて本学への進学を志望しました。

大学院では少人数制の授業により、さまざまな分野で経験豊富な先生方から丁寧な個別指導を受けています。院生同士の活発な議論を通して学びを深める機会も多くあります。本専攻は英米言語文化専攻に属しているため、日本語教育だけでなく英語教授法も学べ、言語教育全般への視野を広げることができました。

また、集中講義では学外の専門家から実践的な指導法を学び、沖縄文化についても学ぶ貴重な経験となりました。沖縄大の留学生向け奨学金制度により、経済的負担も軽減されています。

大学院での学びを通じて、私は日本語教育に関する理論的な知識だけでなく、実習などにより実践的な指導スキルも身につけています。今後は、大学院で得た知識を生かし、日本語教育の現場で実践していきたいと考えています。また、日本語教育を通じて異文化理解や多文化共生の大切さを伝えることに努めていきたいと思っています。

2024(令和6)年度
修了生修士論文
テーマ一覧

- 中国語を母語とする日本語学習者に使用される略語についての一考察
- 『ハックルベリー・フィンの冒険』から考えるアメリカ的自由
- 外国人技能実習生のための日本語教育のあり方—入国後講習を通して—

李 炫姫 教授
イ・ヒョンジョン

専門分野 年少者日本語教育、韓国語教育、外国語教育政策

担当科目 言語教育特殊研究ⅠC・ⅡC、日本語教育学特論Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

- ・「日本語教育の推進に関する法律」による沖縄離島地域の結婚移住女性への日本語支援の在り方
沖縄国際大学外国語研究第26巻第1号 (論文) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2022年
- ・沖縄における韓国人観光客への言語対応の現状(その三)
― 地域性を考慮した整備に向けて ―
沖縄国際大学外国語研究第24巻第1号 (論文) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2021年
- ・沖縄における韓国人観光客への言語対応の現状(その二)
― 他地域との比較から ―
沖縄国際大学外国語研究第22巻第1号 (論文) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2018年
- ・沖縄における結婚移住女性を巡る現状に関する調査研究
南島文化第40号 (論文) 共著/沖縄国際大学南島文化研究所/2018年
- ・沖縄における韓国人観光客への言語対応の現状
沖縄国際大学外国語研究第21巻第1号 (論文) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2017年

井上 泉 教授
いのうえ いずみ

専門分野 産業翻訳・映像翻訳・通訳、翻訳教育、エキスパート論、アクティブラーニング論

担当科目 多文化間教育特論

主な著書・論文

- ・反転学修を中心としたオンライン型学修の学修設計とその学修効果
アクティブ・ラーニング研究 Vol.2 (論文) 単著/ 日本アクティブ・ラーニング学会/2022年
- ・アクティブ・ラーニングにおける学修者参加型評価の可能性と課題
―学修者ビリーフの観点から―
アクティヴ・ラーニング研究 Vol.1 (論文) 単著/日本アクティヴ・ラーニング学会/2020年
- ・A Discursive Analysis of Novice-Professional Differences
in Problem-Solving Approaches to Translation Challenges
通訳翻訳研究への招待 No.20 (論文) 単著/ 日本通訳翻訳学会/ 2019年
- ・問題解決と翻訳タスク・評価法
通訳翻訳研究への招待 第16号 (論文) 単著/日本通訳翻訳学会/2016年
- ・Applying Task-Based Learning to translator education: assisting the development of novice translators' expertise in identifying and addressing translating challenges
Translation & Interpreting Studies (Special issue: T&I pedagogy in dialogue with other disciplines) (Vol.10, No.1) (論文) 共著/John Benjamins Publishing Company/2015年

上江洲 律子 教授
うえず りつこ

専門分野 フランス文学

担当科目 ヨーロッパ文化特論

主な著書・論文

- ・Les représentations différenciées du corps dans *La Condition humaine*
Malraux vu du Japon 論文(単著)/Classiques Garnier/2023年
- ・マルロー『人間の条件』における「身体」イメージの混在
ガリア 第54号 (論文) 単著/大阪大学フランス語フランス文学会/2015年
- ・マルロー『侮蔑の時代』における身体の表象
沖縄国際大学外国語研究 第17巻第2号 (論文) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2014年
- ・マルロー『西欧の誘惑』における身体性の萌芽
フランス文学論集 第47号 (論文) 単著/九州フランス文学会/2012年
- ・マルロー『王道』における身体性
待兼山論叢 第39号 文学篇 (論文) 単著/大阪大学文学会/2005年

里 麻奈美 教授
さと まなみ

専門分野 心理言語学 認知言語学 フィールド実験研究 危機言語

担当科目 言語教育特殊研究Ⅰ・Ⅱ、英語論文の書き方Ⅰ・Ⅱ、英語学特論

主な著書・論文

- ・High sense of agency versus low sense of agency in event framing in Japanese
In:M. Koizumi(Ed.) Issues in Japanese psycholinguistics from comparative perspectives, Volume 1. 9-30.
(論文) 共著/De Gruyter Mouton/2023.
- ・自己主体感の個人差が主語省略文理解時の視点取得に及ぼす影響
心理学研究, 92(2) (論文) 共著/日本心理学会 /2021年
- ・Agentive versus non-agentive motions immediately influence event apprehension and description: An eye-tracking study in a VOS language
Journal of East Asian Linguistics (論文) 共著/Springer/2020年
- ・Metaphor priming in sentence production: Concrete pictures affect abstract language production.
Acta Psychologica, 156 (論文) 共著/Elsevier/2015年
- ・The case of the missing pronouns: Does mentally simulated perspective play a functional role in the comprehension of person?
Cognition, 127 (論文) 共著/ Elsevier /2013年

尚 真貴子 教授
しょう まきこ

専門分野 日本語教育

担当科目 言語教育特殊研究ⅠD・ⅡD、言語教育実習Ⅱ

主な著書・論文

- ・専門的日本語教育人材育成の課題と今後の展開
―沖縄国際大学大学院における「日本語教育実習」から―
沖縄国際大学大学院 地域文化論叢 第21号 共著/沖縄国際大学大学院 地域文化研究科/2023年
- ・英米言語文化学科の日本語教育副専攻課程
―修了生へのアンケート調査より今後の課題を探る―
沖縄国際大学 外国語研究 第21巻第2号 (論文) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2018年
- ・在校生のアンケート回答から見る沖縄国際大学英米言語文化学科の日本語教育
沖縄国際大学 外国語研究 第20巻第2号 (研究ノート) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2017年
- ・「地域の言葉」を外国人は理解しているか ―沖縄県内高校生に対する調査結果との比較から―
沖縄国際大学 総合学術研究紀要 第19巻第1号
(研究ノート) 共著/沖縄国際大学総合学術学会/2017年
- ・辞書に見る日本語
沖縄国際大学 南島文化研究所 旧南洋群島調査報告書 (報告書) 単著/沖縄国際大学南島文化研究所/2016年

素民喜 霞 教授
すみんき かすみ

専門分野 英米文学、沖縄文学、日英翻訳

担当科目 英米小説特論Ⅰ・Ⅱ、英米文化特論

主な著書・論文

- ・In the Woods of Memory 目取真俊著『眼の奥の森』の英訳
(翻訳)/ Stone Bridge Press/ 2017年
- ・“Island Confinement” 崎山多美著『シマ籠る』の英訳
Islands of Protest: Japanese Literature from Okinawa 翻訳/ University of Hawai Press /2016年
- ・Medoruma Shun's Me no oku no mori
沖縄国際大学外国語研究 第16巻第1号 (論文) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2012年
- ・Ichigensan(The Newcomer) デビット・ゾベティ著『いちげんさん』の英訳
翻訳/ Ōzaru Books /2011年
- ・Sakiyama Tami's “Suijō ōkan”: Wandering on the Blurred Borders of Identity
沖縄国際大学外国語研究 第14巻第1号 (論文) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2010年

津波 聡 教授
つは さとし

専門分野 英語教育

担当科目 英語教育特論Ⅱ、言語教育実習Ⅰ

主な著書・論文

- ・Validity of the Number of Words Read in a Two-Semester Extensive Reading Program
The Kyushu Academic Society of English Language Education (論文) 単著/九州英語教育学会/2017年
- ・The effects of using extensive reading as an out-of-class activity
沖縄国際大学外国語研究 第20巻 (論文) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2016年
- ・統合型リーディング指導法の年間適用効果:アクションリサーチを通して
沖縄国際大学外国語研究 第18巻 (論文) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2015年
- ・四技能の促進を図る統合型リーディング指導
沖縄国際大学外国語研究 第17巻 (論文) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2013年
- ・大規模クラスにおける多読指導の効果
沖縄国際大学外国語研究 第15巻 (論文) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2012年

西原 幹子 教授
にしはら みきこ

専門分野 イギリス文学、エリザベス朝演劇

担当科目 英米演劇特論Ⅰ・Ⅱ、英米詩特論Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

- ・George Chapman による「気質」表象―初期喜劇作品を中心に―
沖縄国際大学外国語研究 第25巻第2号 (論文) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2022年
- ・『オセロー』における結婚:「家庭悲劇」との比較から考える
沖縄国際大学外国語研究 第20巻第2号 (論文) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2017年
- ・A Warning for Fair Women における黙劇の機能について
沖縄国際大学外国語研究 第19巻第2号 (論文) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2016年
- ・『ファヴァシャムのアーデン』に見る身分獲得競争のドラマ
『シェイクスピア時代の演劇世界』 共著/九州大学出版会/2015年
- ・『二つの嘆かわしい悲劇』における共同体秩序と「強欲」の危険
沖縄国際大学外国語研究 第18巻第1号 (論文) 単著/沖縄国際大学外国語学会/2014年

李 イニッド 教授
り いにとど

専門分野 言語学、英語教育、マルチリンガリズム、社会言語学

担当科目 言語教育特殊研究Ⅰ・Ⅱ、社会言語学特論、マルチリンガル教育特論、英語教育学特論Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

- ・Words on display: Chinese funeral banners and wreath messages through a geosemiotic lens
The Poetics of Grief and Melancholy in East-West Conflicts and Reconciliations
(論文) 単著/ Springer /2024年
- ・Linguacultural representation of the cultural self and other in Chinese women's discourse on transnational remarriage
Conjugal Relationships in Chinese Culture: Sino-Western Discourses and Aesthetics on Marriage
(論文) 単著/ Springer /2023年
- ・Beyond bilinguality: Code-mixing, semantic relatedness, and name clustering in Hong Kong racehorse names
Chinese Culture in the 21st Century and Its Global Dimensions: Comparative and Interdisciplinary Perspectives
(論文) 単著/ Springer /2020年
- ・What do tongue twisters tell us about L2 receptive competence?
Studies in English Language and Literature 35
(論文) 単著/ National Taiwan University of Science and Technology /2015年
- ・Reflecting on reflections: A case study of experienced and inexperienced ESL teachers
System (An International Journal of Educational Technology and Applied Linguistics) 22 (1)
(論文) 単著/ Elsevier /1994年



人間の諸問題に適切に対応できる 人材の養成

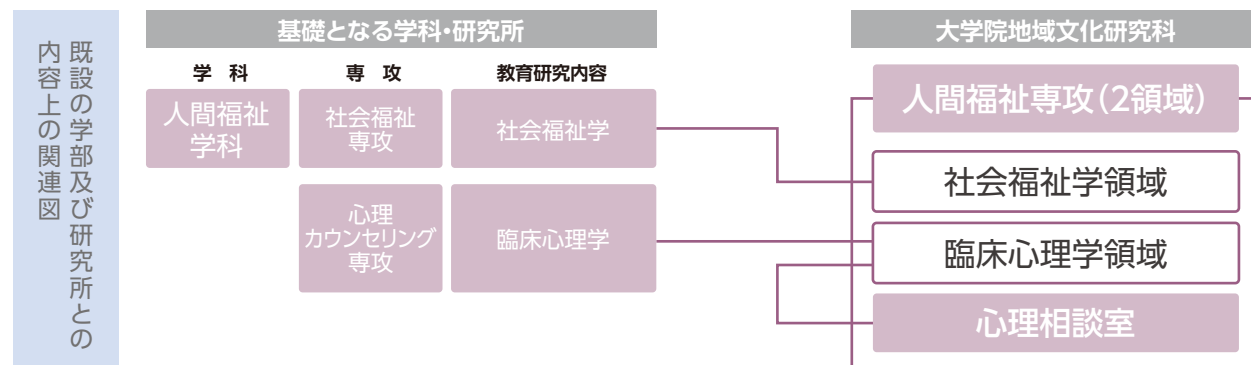
人間福祉専攻は、社会福祉学領域と臨床心理学領域の2つの領域から構成され、時代や社会の必要性に応え、現代社会における人間の好ましいあり方について研究できる人材を養成するとともに、そこで起こる諸問題に対して適切に対応し、解決が図れるような専門的人材を養成することを目的としています。

社会に必要とされる実践的カリキュラム

人間福祉専攻においては、現代社会のニーズや地域性を考慮したカリキュラムの編成と指導体制を重視しています。特に、社会福祉学領域においては、社会福祉施設や地域福祉従事者に必要とされる科目を配置するとともに、専門的な研究ができる研究体制がとられています。また、臨床心理学領域においては、保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働の各分野で活躍できる公認心理師・臨床心理士を養成するのに必要な科目をそろえ、特に実習を重視したカリキュラムが用意されています。

基礎となる学科・研究所

人間福祉専攻は、総合文化学部人間福祉学科を基礎として設置されています。



心理相談室とは

地域文化研究科の附属施設として心理相談室を2003年12月に設置しました。心理相談室は、地域社会の人々のこころの健康に貢献するとともに同研究科人間福祉専攻臨床心理学領域の大学院生の教育、訓練のための施設として設置しています。相談室での外来面接等は、教員や相談室専任の嘱託公認心理師・臨床心理士の指導のもとで大学院生が担当します。さらに担当するケースについて実践記録をまとめ、ケースカンファレンスに参加し、臨床能力を身につけていきます。



教育課程の構成

教育課程は、大別して社会福祉学と臨床心理学の2領域から構成されています。

社会福祉学

社会福祉学領域では、現代社会の諸問題に対して科学的な方法をもってその実態を明らかにし、社会福祉の価値・理論を根拠にその解決の方策を考えることができる人材を養成しています。カリキュラムは、社会福祉学の原理やソーシャルワーク理論を丁寧に学ぶことができると共に、学生ひとりひとりの関心に合わせて専門的知識を深く掘り下げることができる内容になっています。また、沖縄の社会課題だけでなく広く世界に目を向けながら研究を進めることができます。社会構造を深く分析するためには幅広い知識が求められることから、他専攻や他大学の講義を履修している学生もいます。このように学生ひとりひとりが広く深くじっくり学ぶことができる環境を提供しています。

臨床心理学

臨床心理学領域では、人間のこころの問題に対して、専門的な立場で具体的・実践的に対処できる専門家を養成することを主眼としています。そのために、公認心理師・臨床心理士養成に必要な科目を中心に据え、理論と実践の両面から豊かな専門的学識を修得できるカリキュラムを編成し、実践力を養成するための指導を行います。

臨床心理学領域は、公認心理師法に定められたカリキュラムを設置し、かつ、財団法人・日本臨床心理士資格認定協会の実施する「臨床心理士」の資格試験に関する受験資格を有する大学院(1種)として指定されています。本領域修了後には、公認心理師国家試験と臨床心理士試験の両方の受験資格が得られます。

沖縄国際大学大学院

人間福祉専攻 3つのポリシー

人間福祉専攻 社会福祉学領域

●ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

人間福祉専攻社会福祉学領域においては、以下のすべての条件を満たした人物に「社会福祉学修士」の学位を授与します。

1. 社会福祉学領域が指定する必要な科目を履修及び単位を取得し、必要な見識を有すると認められた人物。
2. 自らの専門領域について、専門的な見識と研究方法を有すると認められた人物。
3. 自らの専門領域における研究課題について、一定以上の条件を満たした研究活動によって修士論文をまとめ、最終試験に合格した人物。

●カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

人間福祉専攻社会福祉学領域においては、以下の方針に基づいた教育を行います。

1. 学生各自の目指す専門領域について見識を深め、将来個人や社会の福祉問題に関する適切な研究活動ができるように指導します。
2. 各教員の専門領域と関連させ、個別的な指導体制をもって各学生の研究活動を支援する体制をとります。
3. 指導においては、理論と実践を関連させるために、現場との連携を重視した指導を行います。

●アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

人間福祉専攻社会福祉学領域においては、以下のいずれかの条件を満たす人物を本課程の学生として受け入れます。

1. 社会福祉学に関する一定以上の知識と語学力を有すると認められた人物。
2. 在職する行政機関、社会福祉施設、社会福祉協議会、医療機関等の長から推薦がある人物で、一定以上の社会福祉学に関する知識を有すると認められた人物。
3. 学校、教育委員会等の代表者の推薦がある人物で、一定以上の社会福祉学に関する知識を有すると認められた人物。

人間福祉専攻 臨床心理学領域

本領域の教育目標

1. 臨床心理学領域における専門的知識と技能を兼ね備え、保健医療、福祉、教育その他の分野において活躍できる公認心理師・臨床心理士を養成します。
2. 時代や社会の要請に応え、現代社会における人の安寧につながる研究ができる人材を養成します。
3. 現代社会における諸問題について心理学的視座から、高度な専門的技能を用い、多職種と協働しながら、実践的な問題解決が図れる人材を養成します。

●ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

本領域は、領域所定の教育課程を終え、本領域の教育目標を達成した学生を、以下の資質を有する人物と認め、修士(臨床心理学)の学位を授与します。

1. 臨床心理学および心理学の各領域に関して、一定以上の見識を有している。
2. 自らの専門領域について一定以上の専門的な見識と研究方法を有している。
3. 自らの専門領域における課題について、実証的な研究活動によって一定レベル以上の修士論文にまとめることができる。
4. 実習において、一定以上の臨床心理学的知識・技術・技能を身につけている。

●カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

本領域の教育目標およびディプロマ・ポリシーを実現するために、以下の方針に基づいて正課教育を編成し、正課外教育を展開します。

1. 臨床心理査定を高めるための講義・実習を提供する。
2. 臨床面接の技能を高めるための講義・実習を提供する。
3. 臨床心理学的地域援助の実践力を高めるための講義・実習を提供する。
4. 臨床心理学的研究・調査を可能にするための科目群を提供する。

●アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

本領域の教育目標を理解し、人間のこころに関心を持ち、幅広い視野と柔軟な思考を備え、高度な専門職をめざす、以下のような人物をもとめます。

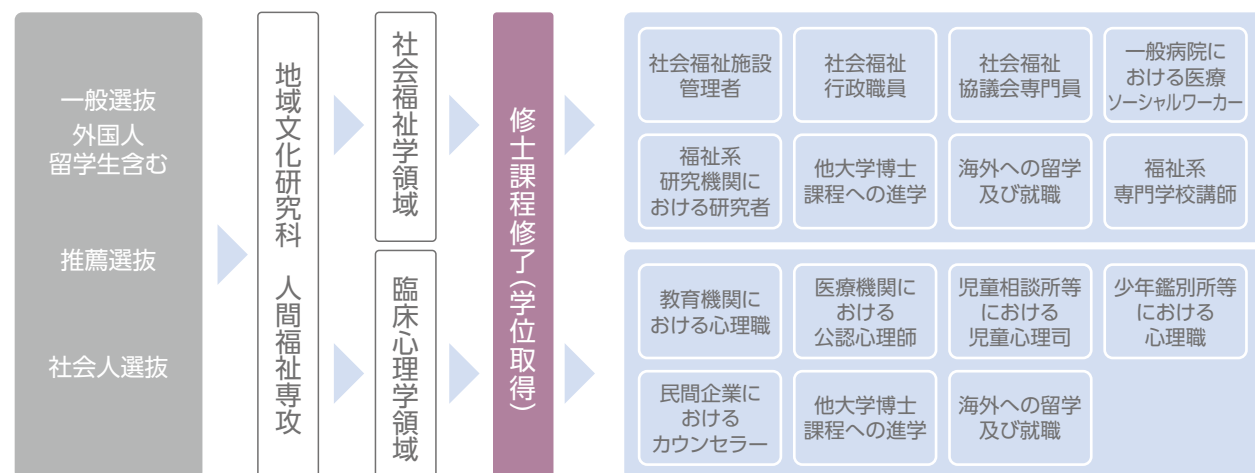
1. 公認心理師・臨床心理士をめざす人物。
2. 心理学の基礎的知識と対人関係能力を、一定以上身につけている人物。
3. 心理学の実証的研究手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できる力が身につけている人物。
4. 心理学的視座から現代社会における諸問題について関心を持ち、人とのつながりの中で実践的に問題を解決していくことができる人物。



専攻内容



修了後の進路



大学院 臨床心理学領域は公認心理師法に定められた公認心理師養成カリキュラムを設置し、かつ、臨床心理士第1種指定大学院に指定されています

大学院地域文化研究科人間福祉専攻臨床心理学領域は、公認心理師法に定められた公認心理師養成カリキュラムを設置するとともに、公益財団法人・日本臨床心理士資格認定協会の実施する「臨床心理士」の資格試験に関する受験資格を有する大学院(1種)として指定されています。本領域において、それぞれの資格に必要な科目を修得すると、公認心理師国家試験の受験資格および臨床心理士試験の受験資格が得られ、どちらも修了した年に受験することができます。

「公認心理師」は保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、心理に関する支援を要する者および関係者の理解、心理に関する相談及び助言、指導その他の援助、心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を、行うことを業とする者をいいます。「臨床心理士」は臨床心理学を学問的基盤に、心の問題の援助・解決・研究に貢献する専門家として認定する資格です。

なお、公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、公認心理師に対応したカリキュラムを持つ大学において公認心理師法に定められた25科目を修得し卒業する必要があります。2017年9月15日より前に、大学で上記25科目に相当する科目を履修済みの場合は、特例措置で読み替えることができる場合があります(公認心理師法附則第2条参照)。科目の読み替えについては出身大学にお問い合わせください。

院生からのメッセージ



人間福祉専攻
社会福祉学領域
山下 千尋
やました ちひろ

私は学部時代のスクールソーシャルワーク実習を通じ、教育現場で社会福祉の専門職として実践するには高度な知識と技術が求められると実感しました。そこで効果的な支援スキルを習得するため大学院への進学を決意しました。本大学院を選んだのは、自身の専門的関心を深められる研究環境が整っており、学部時代に指導を受けた教授のもとで学び続けたいと考えたためです。

入学後、特に魅力を感じたのは、議論を通じて学びを深められることです。学部でも理論や知識を学びましたが、大学院ではディスカッションを通じてそれらを自身の研究テーマに落とし込み、多角的な視点を得ることができます。授業での対話や先生方のフィードバックを受ける中で、研究の立ち位置を見直し、新たな視点を得る機会も多くあります。

現在は学校における子どもの権利擁護について研究を進めています。卒業後は専門職として根拠に基づいた実践を行うとともに、自身の実践を研究に活かし、より効果的な支援の構築や共有を通じて、理論と実践の橋渡しができる人材を目指します。

本大学院には、新たな知見と深い学識を得るために最適な環境が整っています。ぜひその機会を活かしていただければと思います。



人間福祉専攻
臨床心理学領域
宮城 柚
みやぎ ゆず

私は沖縄国際大学で4年間、心理学を学びました。在学中に適応指導教室でのボランティアを始め、さまざまな子どもたちと関わる機会を得ました。特に、不登校の児童・生徒への支援や、彼らを支える保護者や教師のサポートに関心を抱き、心理的支援の仕事に携わりたいという思いが芽生えました。その経験を通じて、より専門的な知識と支援技術の必要性を実感し、学びを深めるために本大学院へ進学しました。

本大学院のカリキュラムには、公認心理師・臨床心理士の資格取得に必要な科目が設置されており、附属心理相談室での実践的な実習に加え、医療・保健、教育、福祉など幅広い領域での学外実習が行われています。実践を重視した学びを通じて、現場で活かせる専門性を身につけることができる充実した環境が整っています。また、ディスカッション形式の講義が多く、積極的な意見交換を通じて論理的思考力や多様な視点を養うことができます。さらに、各分野で活躍されている先生方による丁寧な指導を受けられる点も大きな魅力です。

修了後は、本大学院で得た知識と経験を活かし、さまざまな社会的課題に対応できる心理的支援の専門家として社会に貢献したいと考えています。

2024(令和6)年度 修了生修士論文 テーマ一覧

- 関係的自己の可変性が本来感、本来感希求及び孤独感に及ぼす影響
- 青年期女性の精神的自立が母親からの期待への葛藤対処方略に与える影響
ー母親からの期待に対する受け止め方を踏まえてー
- 大学生における自己の多元性がアイデンティティと適応に及ぼす影響
- 孤独感、孤独に対する捉え方が主観的幸福感、対人ストレスに与える影響について
～親和動機に着目して～
- 大学生における月経前症候群(PMS)の症状とソーシャルサポートの関連の検討
- 大学生における完全主義と社会的スキルが適応に及ぼす影響
- 負の理想・現実自己の差異が自己内省と自己反芻および精神的健康に及ぼす影響の検討
- 援助要請スキルと利益・コストの予期が援助要請スタイルへ及ぼす影響
- 友人親密化進度ごとのセルフ・モニタリングによる自己開示の適切性と青年期の被受容感との関連
- 反すうを持続しやすい状況と反すうの思考内容の検討

岩田 直子 教授
いわた なおこ

専門分野 社会福祉学、障害学、島嶼研究
担当科目 地域共生社会特論、人間福祉特殊研究ⅠD・IID

- 主な著書・論文
- 『ダイバーシティ社会に向けて～ろう者の手話言語獲得の歩みから考える～』
沖国大うまんちゅ講座 共著/編集工房東洋企画/2021年
 - 『障害者福祉論 第3章4節』 共著/中央法規出版社/2021年
 - ・島嶼地域の障害者の地域生活の特徴 ～パラオと沖縄を比較しながら～
地域研究シリーズNo.43 旧南洋群島調査報告書
(論文)単著/沖縄国際大学南島文化研究所/2016年
 - ・障害者の社会的孤立
社会的孤立問題への挑戦:分析の視座と福祉実践
共著/法律文化社/2013年
 - ・自立生活の多様性を求めて ～沖縄県宮古島市を事例にして～
共生の障害学～排除と隔離を超えて～
共著/明石書店/2012年

上田 幸彦 教授
うえだ ゆきひこ

専門分野 臨床心理学、リハビリテーション心理学、高次脳機能障害、認知行動療法
担当科目 臨床心理学特殊研究ⅠA・IIa、臨床心理面接特論、
心理的アセスメントに関する理論と実践、心理実践実習

- 主な著書・論文
- ・Cognitive rehabilitation for a person with traumatic brain injury and aphasia.
Case Report
J Clinical Case Rep Case Stud 3(1) (論文)単著/NorCal Open Access Publications/2020年
 - ・Profile of cognitive function in adults with duchenne muscular dystrophy
Brain & Development, 39 (論文)共著/The Japanese Society of Child Neurology/2017年
 - ・心理社会的行動障害を持つ高次脳機能障害者への認知行動療法
行動療法研究, 43(1) (論文)単著/日本認知・行動療法学会/2017年
 - ・筋ジストロフィーの心理支援
医療, 71(10) (論文)単著/国立医療学会/2017年
 - ・Differential outcomes of skill training, group counseling,
and individual cognitive therapy for persons with acquired visual impairment
Japanese Psychological Research, Vol.55
(論文)共著/The Japanese Psychological Association/2013年

荻野 太司 准教授
おぎの ひろし

専門分野 司法福祉学、刑事政策学
担当科目 社会福祉法制度特論

- 主な著書・論文
- ・地方裁判所死刑判決数(1952年-2021年)の地理的偏在性に関する研究序説
龍谷法学 55(4) (論文)単著/龍谷法学会/2023年
 - ・地方再犯防止推進計画策定の偏在性
龍谷大学矯正・保護総合センター研究年報(12)
(論文)共著/龍谷大学矯正・保護総合センター/2022年
 - ・権利擁護活動における法的諸問題
新・社会福祉士養成課程対応 権利擁護を支える法制度 第7章
共著/株式会社みらい/2021年
 - ・外国人仮釈放者と退去強制手続に関する一考察
人間福祉研究(19) (論文)単著/広島文教大学人間福祉学会/2021年
 - ・保護観察と退去強制に関する一考察
龍谷大学矯正・保護総合センター研究年報(7)
(論文)単著/龍谷大学矯正・保護総合センター/2017年

※共著者・編著者名・編集(監修)団体名・収録ページは編集の都合上省略しております。

小柳 正弘 教授
こやなぎ まさひろ

専門分野 障害と支援、ケアとアート、社会哲学、倫理学
担当科目 障害と支援・ケア特論Ⅰ・Ⅱ、人間福祉特論、社会福祉研究法特論Ⅱ
人間福祉特殊研究ⅠC・IIC

- 主な著書・論文
- ・障害の社会モデルとケアー社会的自我論の観点から
先端倫理研究 第15号 (論文)単著/熊本大学文学部倫理学研究室/2021年
 - ・「『支援』における「現場の理念」の探索・構築にむけて
ー障害児支援の現場における質的調査の一例を素材にー」
沖縄国際大学総合学術研究紀要 20-2 (研究ノート)共著/沖縄国際大学総合学術学会/2018年
 - ・自己決定の倫理と「私-たち」の自由
単著/ナカニシヤ出版/2009年
 - ・自己決定論のゆくえー哲学・法学・医学の現場から
共著/九州大学出版会/2008年
 - ・G.H.ミードの世界ーミード研究の最前線
共著/恒星社厚生閣/1997年

知名 孝 教授
ちな たかし

専門分野 精神保健福祉
担当科目 障害児者援助特論

- 主な著書・論文
- ・“Resiliency and Mental Health of School Teachers in Okinawa”
(論文)共著/Journal of Health Research(オンラインジャーナル)/2020年3月
 - ・The First-Year Experience: Mental Health of University
Students in Okinawa, Germany, and Thailand
南島文化 第42号 (論文)共著/沖縄国際大学南島文化研究所/2019年
 - ・Mental Health and Well-Being of University Students in Okinawa
Hindawi Education Research International Volume 2018(オンライン・ジャーナル)
(論文)共著/Hindawi/2018年
 - ・特別支援学級急増の背景と課題
共育者 15号 単著/沖縄県民間教育研究所/2017年
 - ・発達障害のある子どもと精神保健福祉士の実践
精神保健福祉:日本精神保健福祉士協会誌 47(2)単著/日本精神保健福祉士協会/2016年

Donald Craig Willcox 教授
ドナルド・クレイグ・ウィルコックス

専門分野 老年学、国際保健福祉、公衆衛生学
担当科目 人間福祉特殊研究ⅠE、人間福祉特殊研究ⅡE、
福祉老年学特論Ⅰ・Ⅱ、老年社会科学特論

- 主な著書・論文
- ・Lifespan extension conferred by mitogen-activated protein kinase 5
(MAP3K5) longevity-associated gene variation is confined to at-risk men
with a cardiometabolic disease.
Aging (論文)共著/ Impact Journals /2021年
 - ・The Cultural Context of Aging:Worldwide Perspectives
共著/ Praeger /2020年
 - ・The Okinawa Way
共著/ Penguin Books/2018年
 - ・Minimal Shortening of Leukocyte Telomere Length Across Age Groups in a
Cross-Sectional Study for Carriers of a Longevity-Associated FOXO3 Allele.
Gerontol A Biol Sci Med Sci (論文)共著/ Oxford Academic Press /2018年
 - ・FOXO3 and Exceptional Longevity Insights From Hydra to Humans.
Curr Top Dev Biol (論文)共著/ Elsevier Press /2018年

比嘉 昌哉 教授
ひが まさちか

専門分野 児童家庭福祉論、スクールソーシャルワーク論
担当科目 人間福祉特殊研究Ⅰ・Ⅱ、子ども家庭支援特論Ⅰ

- 主な著書・論文
- ・スクールソーシャルワーカーの支援体制
ーリード(チーフ・主任)スクールソーシャルワーカーの役割に焦点をあててー
子ども家庭福祉学 第22号 (論文)単著/日本子ども家庭福祉学会/2022年
 - ・ハワイ州におけるスクールソーシャルワーカーの実践～インタビュー調査を通して～
地域文化論叢,第19号 (論文)単著/沖縄国際大学大学院地域文化研究科/2020年
 - ・子どもにとって健康で文化的な最低限度の生活とは
季刊 セクシュアリティ 沖縄から学ぶ No.75 (論文)単著/エイデル研究所/2016年
 - ・沖縄県におけるスクールソーシャルワーカーの質的向上を
目指したスーパービジョン
スクールソーシャルワーカーのスーパーバージョン・プログラム
(論文)単著/科学研究費研究報告書/2016年
 - ・効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラムを活用した
スーパービジョンー沖縄県の取り組みからー
すべての子どもたちを包括する支援システム (論文)単著/せせらぎ出版/2016年

平山 篤史 准教授
ひらやま あつし

専門分野 臨床心理学
担当科目 臨床心理基礎実習、グループアプローチ特論、臨床心理学特論Ⅱ
臨床心理面接特論Ⅰ、臨床心理事例検討実習

- 主な著書・論文
- ・学部教育での心理劇の手法を用いたグループアプローチによる
他者との関わりの変容
沖縄国際大学人間福祉研究 第9巻2号 (論文)単著/沖縄国際大学人間福祉学会/2012年
 - ・感情が爆発'し対人関係のトラブルを繰り返す
アスペルガー症候群の成人男性との面接
沖縄国際大学地域文化論叢別冊心理相談室紀要第2巻
(論文)単著/沖縄国際大学地域文化研究科/2007年
 - ・失語症を伴う長期入院高齢者とのロールプレイを利用した面接過程
*心理臨床学研究*23巻6号 (論文)単著/心理臨床学会/2005年
 - ・ロールプレイ場面のテーマ・役割の認知が演者の体験に及ぼす影響
*心理劇研究*28巻2号 (論文)単著/西日本心理劇学会/2005年
 - ・慢性期統合失調症入院患者に対する対人交流をねらいとした
ロールプレイの導入過程
*心理劇研究*27巻2号 (論文)単著/西日本心理劇学会/2003年

前堂 志乃 准教授
まえどう しの

専門分野 知覚心理学、認知心理学、認知神経心理学
担当科目 認知心理学特論

- 主な著書・論文
- ・Profile of cognitive function in adults with duchenne muscular dystrophy
Brain & Development 39 (論文)共著/The Japanese Society of Child Neurology/2017年
 - ・筋強直性ジストロフィーの認知機能について
神経内科 85(3) (論文)共著/科学評論社/2016年
 - ・「感覚であそぼー知覚と錯覚の不思議体験ー」
沖縄国際大学公開講座18なかゆくい講座 元気が出るワークショップ
共著/沖縄国際大学公開講座委員会/2009年
 - ・大学生のカウンセリングに対するイメージの変化と心理学を学ぶ実感についての研究
ー自主的体験学習プログラムとの関連を中心にー
沖縄国際大学人間福祉研究 第3巻 第1号 (論文)単著/沖縄国際大学人間福祉学会/2005年
 - ・教職を志望する大学生が提案したいじめの対応策に関する研究
ー異なるいじめ場面と異なる立場で提案された対応策ー
沖縄国際大学人間福祉研究 第1巻 第1号 (論文)単著/沖縄国際大学人間福祉学会/2003年

宮里 新之介 准教授
みやざと しんのすけ

専門分野 臨床心理学、障害児・障害者心理学
担当科目 臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)、臨床心理基礎実習、
福祉分野に関する理論と支援の展開

- 主な著書・論文
- ・児童教育を専攻する短期大学生に対する心理劇を用いたアクティブ・ラーニングの試み
ー保育時の対応困難場面に焦点を当ててー
*鹿児島女子短期大学紀要*第57号 (論文)共著/鹿児島女子短期大学/2020年
 - ・児童教育を専攻する短期大学生の実習における困難感の調査研究
*鹿児島女子短期大学紀要*第52号 (論文)単著/鹿児島女子短期大学/2017年
 - ・放課後児童クラブにおける指導員の発達障害児対応の困難感に関する調査研究
*鹿児島女子短期大学紀要*第50号 (論文)単著/鹿児島女子短期大学/2015年
 - ・多動性・衝動性の高い高機能広汎性発達障害児へのグループセラピー
ー他児および活動に対する注目と相互交流の促進を目的としてー
*九州大学総合臨床心理研究*第1巻
*鹿児島女子短期大学紀要*第50号 (論文)単著/鹿児島女子短期大学/2010年
 - ・重度アルツハイマー型認知症高齢者に対する情動制御不全の改善に向けた動作法の適用
*リハビリテーション心理学研究*第37巻1号 (論文)単著/日本リハビリテーション心理学会/2010年

宮良 尚子 講師
みやら しょうこ

専門分野 臨床心理学、周産期心理臨床
担当科目 臨床心理基礎実習

- 主な著書・論文
- ・産婦健診を活用した産後の母親の抑うつ状態と対児愛着の問題に対する支援の検討
沖縄の小児保健, 48, 15-20 (論文)単著/沖縄県小児保健協会/2021年
 - ・当院における産婦健康診査導入の状況と問題点
沖縄産婦人科学会雑誌, 43, 81-86 (論文)共著/沖縄産婦人科学会/2019年
 - ・周産期医療の現場で出会う遺伝の問題をもつ親子への心理的支援
日本遺伝看護学会誌, 13(2)42-48. (論文)単著/日本遺伝看護学会/2015年
 - ・児に障がいが見つかった妊婦とその家族への心理支援
周産期医学,44(7)949-952. (論文)単著/東京医学社/2014年
 - ・書くこと・座右の銘を支えにしてきた女性との面接過程
沖縄国際大学大学院地域文化論叢 別冊心理相談室紀要 創刊号, 69-80.
(論文)単著/沖縄国際大学地域文化研究科/2006年

山岡 明奈 准教授
やまおか あきな

専門分野 社会心理学
担当科目 心理学研究法特論

- 主な著書・論文
- ・創造的な職業従事者と一般職従事者におけるマインドワンダリング傾向の違い
パーソナリティ研究, 第31巻 単著/日本パーソナリティ心理学会/2022年
 - ・マインドワンダリングの内容と創造性および精神的健康との関連
社会心理学研究, 第36巻 共著/日本社会心理学会/2021年
 - ・Does mind wandering during the thought incubation period improve creativity
and worsen mood?
Psychological Reports, 123 共著/SAGE Journals/2020年
 - ・日本語版意図的/非意図的マインドワンダリング傾向尺度の作成と
信頼性・妥当性の検討
教育心理学研究, 第67巻 共著/日本教育心理学会/2019年
 - ・マインドワンダリングが創造的な問題解決を促進する
心理学研究, 第87巻 共著/日本心理学会/2016年



Graduate
School
of
Regional Business
and Economics

大学院 地域産業 研究科

地域産業
専攻

理念・目的

地域産業研究科地域産業専攻は、経済学及び商学の分野で斬新な環境を創造しうる企業者精神を磨くという理念を具体化するため、1998(平成10)年に開設されました。具体的には、地域社会で活躍しうる企業者、研究者や教育者などを養成するために、人材育成機能と研究機能を併せ持つ一つの拠点を形成し、①自らの専門性と複合知識を実社会において体現し地域産業振興の原動力となり得る高度の専門的職業人の養成と併せて②経済学・経営学・マーケティング・財政学・情報等の分野の有機的連携に基づく研究活動の一層の促進を設置の目的としています。従って、本研究科では、学際的なカリキュラムを通して、企業・行政等の実務現場でスペシャリストとしての役割を担える人材などを養成することを主たる教育研究の目標としています。



グローバル化時代に活躍できる人材育成

「グローカル(Glocal)」という言葉があります。「グローバル(Global:地球的な規模の)」と「ローカル(Local:地域的な)」を合わせた造語です。その意味するところは、「地域性を考慮しながら、地球規模の視点で考え、行動すること(デジタル大辞泉)」です。

ここで「地域」という言葉を冠した本研究科の意義を考えてみましょう。戦後、わが国は東洋の奇跡と称される高度経済成長を遂げましたが、その施政権外に置かれていた沖縄にその成果が十分に配分されることはありませんでした。結果として、1972年の復帰時には所得、生活基盤、産業基盤など多くの分野において沖縄と本土との間に大きな格差が生じていました。その上、他府県と比較して沖縄は散在性、狭小性、遠隔性といった島嶼性から生じる諸問題に直面する条件不利地域でした。しかし、沖縄振興開発計画により格差は正が進み、他方でグローバル化が進んでいく中で、沖縄は経済成長の著しい東アジア諸国にわが国で最も近い地域として、その優位性や潜在力が注目され始めました。

こうした時代背景の中で、地域産業研究科は1998年に開設されました。本研究

科は情報化されたグローバル経済の下で、地域産業・経済発展の原動力となる専門的職業人の育成を目指しています。教育研究分野は、経営領域、産業情報領域、経済領域、沖縄・環境経済領域、財政領域にわたり、教育課程は比較経営、地域流通、地域発展、応用計量経済、環境経済、沖縄経済、産業組織、地域社会経済システム、そして財政といった9つの専門科目域から構成されています。

また、幅広い専門知識を修得できるように主専攻と副専攻が設置されています。さらには、企業などに籍を置いたまま入学を希望する社会人に対して、入学後も学びやすいように教育プログラムを組んでいます。本研究科は創設から四半世紀が経過し、これまで大学教員、公務員、研究員、税理士、中小企業診断士など多くの修了生を輩出しました。

皆さんが地域産業研究科での研究活動を通じて課題発見能力と問題解決能力を鍛え、グローバルな視野を持ち、ローカル産業・経済における諸課題に対処できる「グローカルな人材」として活躍されることを心から祈念しています。

地域産業研究科がめざすもの

高度な専門的職業人の養成

本研究科では、今日の高度に情報化されたグローバル経済下で、商業、経済、経営、財政および情報といった各専門分野からの学際的な分析能力の育成を目指しており、その結果として皆様が将来、企業経営者や研究員、教員、公務員、税理士、中小企業診断士あるいは公認会計士など地域社会のスペシャリストとして、中核的な役割を担える専門的職業人の育成を目指します。



国際化への対応

今日の高度に情報化されたグローバル経済は混沌としてきており、もはや、地域社会のみで経済は語れなくなり、そこでは新たな経済理論が求められていると同時に、学際的な視野をもった企業者も必要とされています。とりわけ、沖縄県は島嶼地域なのであり、天然資源の乏しいなか、有能な企業者の育成が重要視され、日頃から自己の環境を最善なものへと作り替えていける判断能力を有する企業者の存在が地域経済発展のカギを握っています。そのような状況の中で本県は、その地理的条件や気候的・風土的特性から、主にアジア諸国との経済交流の基点として最適な場所と考えられ、そこでは高度な教育・研究を行う大学院もその中核的な役割を果たすことが期待されています。

地域の地域産業研究科へのニーズ

現代資本主義経済における産業革命後の経済発展の中心地はイギリスからアメリカ、さらに今日では東アジアに移転してきております。その一つの要因として考えられるのは、絶えず発展途上の立場からキャッチアップする企業者精神の存在があり、そこでは常に有能なイノベーターとしての企業者の役割が不可欠であったことです。つまり、地域経済の発展には企業者としての人材育成が極めて重要であり、とりわけ、県内企業は多くが中小零細企業なので、脆弱な存立基盤を支えるためにも有能な企業者の存在が不可欠です。また、情報化や国際化など、企業を取り巻く環境の大きな変化に対処するためにも、経済学・経営学・マーケティング・財政学・情報等の専門知識を有し、広い視野を持って組織やプロジェクトの管理運営が行え、また、企画能力等に優れた企業者に対するニーズは今後ますます高まるものと考えられています。





地域産業専攻は、経済・経営・商学・財政・情報・環境などの学術分野の有機的な連携の下に、各領域の専門性の深化と併せて創造的な思考能力を涵養することを意図しております。

とりわけ、沖縄県は島嶼地域であり、天然資源の乏しいなかでは、有能な企業者としてのクリエイティブな能力、つまり自分の皮膚で感じ、自分の頭で考え、方向づける能力および、自ら情報を発信する能力を涵養することが大切であり、このための機会を提供することが、この専攻の役割だと考えております。

具体的には企業、行政および教育などの実務現場での実践的な課題に迅速に対処しうる能力、つまり自らの専門性と総合的な知識を実社会において応用し、地域経済発展の原動力となり得る高度の企業者活動を促進することを目指します。

沖縄国際大学大学院

地域産業専攻 3つのポリシー

●ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

1. 所定の年限在学し、研究指導を受け、本研究科の目的に沿って設定した科目を履修して、所定の単位を修得し、かつ修士論文または特定課題研究を提出して、所定の試験に合格することが課程修了の要件です。
2. 地域産業に関係する専門的・複合的な学識を備え、専攻領域における研究能力及び知識、高度な職業人としての優れた能力及び知識を身につけているかどうか、課程修了の目安となります。

●カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

地域産業の振興を促進する上で直面する様々な課題に実践的に対処でき、国際的にも活躍できる人材を育成するために、次のような方針に沿ってカリキュラムを作成しています。

1. 広範な講義科目群より専門知識を習得すると共に複合知識を実社会において体现できる能力を身につける。
2. 研究指導分野に関わる指導教員群との相互討論によって自らの問題意識を明確にし、個別課題に取り組む。
3. 修士論文または特定課題研究を完成し、自己の研究を専門分野の中に位置づけ、研究の成果と意義について客観的に把握する能力を身につける。

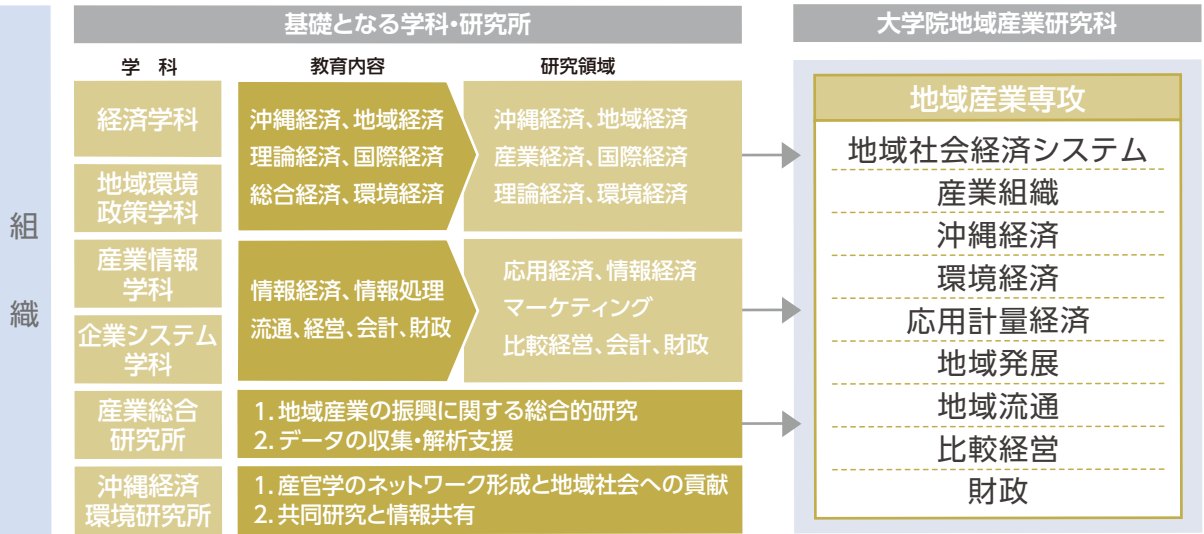
●アドミッション・ポリシー(入学受入方針)

地域産業研究科は、経済、経営、マーケティング、会計、情報、環境などの学術分野の有機的な連携の下に、各領域の専門性の深化と併せて広い視野に立った思考能力を有する専門的職業人を養成することを目的としています。そのため、以下のような人物を受け入れます。

1. 各専攻領域に関する知識及び専門的な素養を有する人物。
2. 企業、行政および教育などの実務現場で将来、地域社会、国際社会の発展に寄与できる豊かな素養と能力・意欲を備えた人物。

基礎となる学科・研究所

地域産業研究科は、経済学部(経済学科、地域環境政策学科)と産業情報学部(企業システム学科、産業情報学科)を基礎として設置されています。また産業総合研究所と沖縄経済環境研究所は、本研究科を支える重要な関連機関です。各学部の卒業生は学際的に統合されたすべての領域に入学することができます。



※カリキュラムについては予告なしに変更される場合があります。ご了承下さい。

地域産業セミナー(1年次必修科目)

地域産業セミナーは、専門性と複合的知識を実社会において体现し、地域産業振興の原動力となる高度の専門的職業人の養成と、経済学・経営学・商学・会計学・情報等の分野の有機的連携に基づく研究活動の促進を目的としています。講義は経済学系と商学系の内容を加味した学際的な科目をオムニバス方式で行います。

まず、修士課程における学習・研究の進め方の基本を学び、次に経済学系、商学系の幅広い知識を学ぶことにより、専門領域における学習をより深化させることができます。また、1年次の必修科目として設定しており、学生が相互に啓発し、学習、研究を深めていくことをねらいとしています。

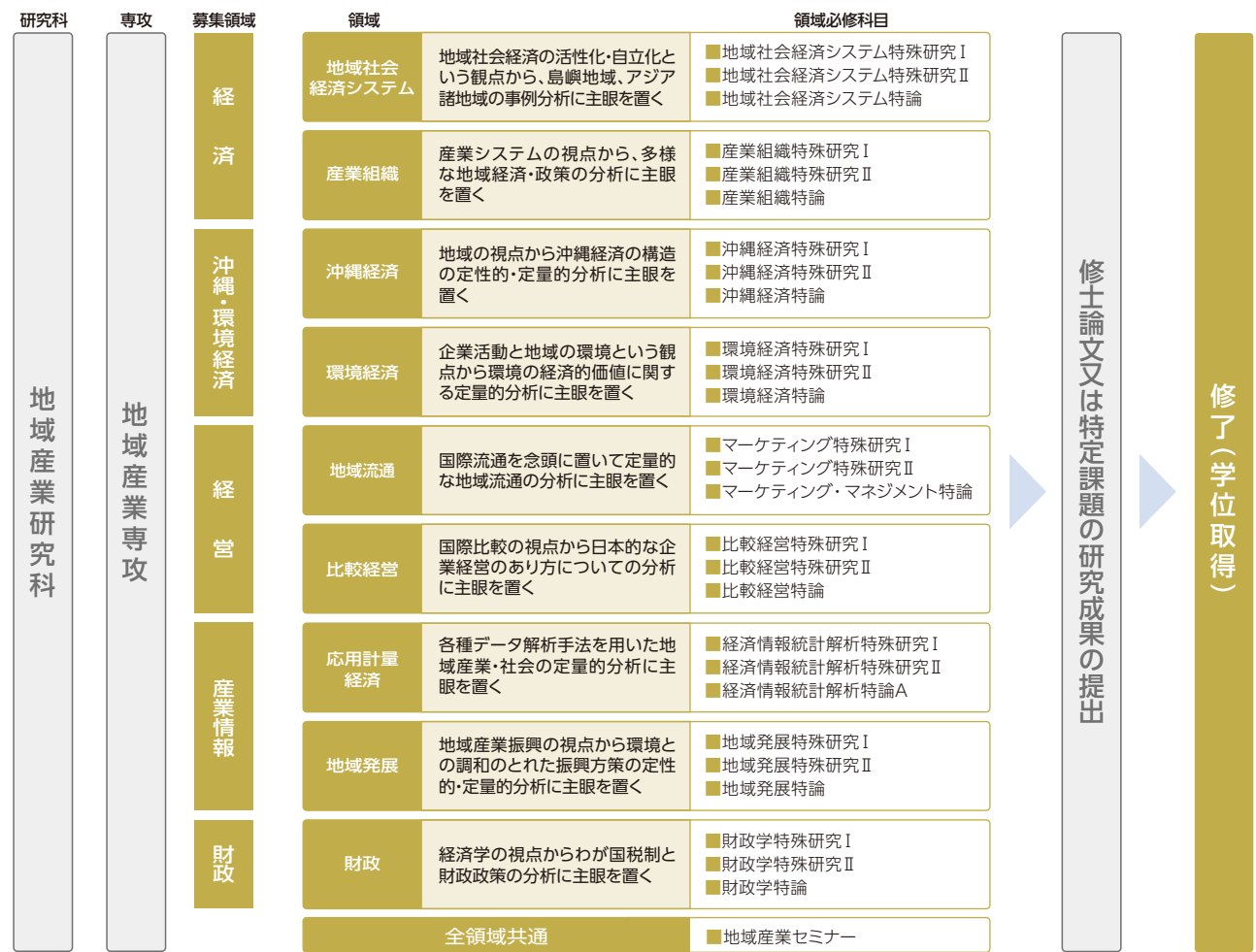
教育課程の構成

教育課程は大別して、地域社会経済システム、産業組織、沖縄経済、環境経済、応用計量経済、地域発展、地域流通、比較経営、財政の専門科目域から構成されています。

地域社会経済システム	今日のわが国の社会経済システムには大転換が必要です。当領域では、地域分権・地域主権・地域自立の視点から地域社会をトータルシステムとして捉え、地域社会経済システムの構築について究明することを目的としています。
産業組織	産業組織領域は、産業組織を理論的・実証的・政策的に研究することを中心としており、社会経済システムの変化と産業組織の動向に関する洞察・応用能力を付与し、深化させることを目的としています。
沖縄経済	沖縄経済領域は、日本の中できわめて特異な歴史をもち、社会経済構造が異なっている沖縄経済を、理論的・実証的に研究することを中心としており、その取り組みを通して、経済学的な分析手法を学び、経済学的な思考能力を身につけることを目的としています。
環境経済	環境経済領域は、環境と経済の緊張関係、つまり、どちらかを優先すると犠牲を伴うトレードオフ(Trade-Off)関係が生じるが、これを和らげる持続可能な経済発展について探究することを目的とします。そのために、環境の経済的価値の評価及びその手法、基礎的理論、調査などを通して学んでいきます。
応用計量経済	応用計量経済領域は、各種統計解析手法や計量経済学的手法を用いた経済・社会情報の分析と実社会への応用について研究することを中心としており、実務現場で求められる、合理的な情報の解析と意思決定根拠の提示能力(情報分析能力)を付与し、深化させることを目的としています。
地域発展	「地域」とは社会の事象、現象の同質または等質を囲んだエリアであり、その分析対象は地元沖縄に止まらず、アジアさらに世界にまで広がります。地域発展領域は地域の視点から、社会・経済の動向を科学的に分析し、その法則性を捉え、洞察・応用能力を深化させることを目的としています。
地域流通	地域流通領域は、観光ビジネス、エリアマーケティング、地域ブランディング、地域消費者行動などについて実証的に研究することを中心としており、地域的及び国際的視点から、地域市場を分析するための知識・分析能力を習得し、深化させることを目的としています。
比較経営	比較経営領域は、経済のグローバル化にともなう各国の企業経営の特質を比較分析することによって、日本企業の経営戦略の特質や方向性を明らかにすることを中心としており、とりわけ人的資源の有効活用という視点から経営管理に関する理論的分析や洞察能力を付与し、企業者精神を深化させることを目的としています。
財政	財政領域は、財政学の中でも特に租税制度と財政政策について研究することを中心としており、経済学的視点から、わが国の租税制度が直面する諸問題を分析する能力、理論的に思考する洞察力を付与し、深化させることを目的としています。
学際的なカリキュラムの設置	履修方法に関しても、他の大学院や研究科との単位互換などを設けることにより、大学院学生個々のニーズに合致し実務応用能力に富んだ学際的な専門性の深化が図れるよう配慮しています。



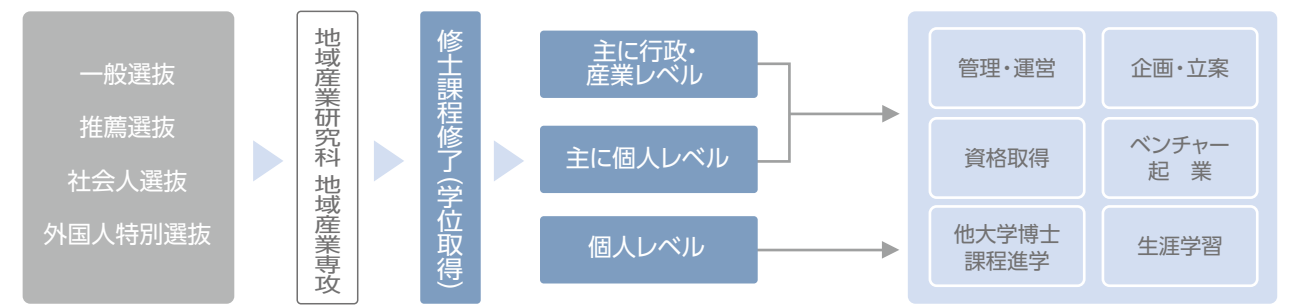
専攻内容



専門深化を支援する開設科目群	複合的に知識を広げるための特別開設科目群
■経済情報統計解析特論B ■地方財政特論 ■地域経済政策特論 ■意思決定特論 ■応用マクロ経済学特論 ■地域資源経済特論 ■商学特論 ■人的資源管理特論 ■地域経済計量分析特論 ■財務会計特論 ■情報資源管理特論 ■観光情報処理特論	■経済学特論 ■インターネット・マーケティング特論 ■マーケティング・コミュニケーション特論 ■税法特論Ⅰ ■ビジネス特論 ■数理経済情報特論 ■コミュニケーション特論 ■税法特論Ⅱ

※カリキュラムにつきましては予告なしに変更される場合があります。ご了承下さい。

修了後の進路



院生からのメッセージ



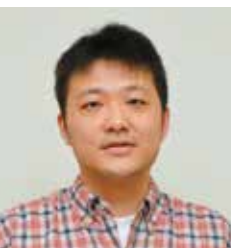
地域産業専攻
産業組織領域
比嘉 穂乃香
ひが ほのか

私は本学の経済学科を卒業後、地域産業研究科に進学しました。大学院へ進学した理由は、大学生時代に学んだ経済学の中でも特に行動経済学に関心を持ち、人の意思決定や集団内の行動メカニズムをより深く探求したいと考えたためです。

大学院では、専攻主任の先生をはじめ、他の先生方からも専門的な知見に基づいた丁寧な指導や的確な助言をいただけるため、安心して研究を進めることができます。また、講義を通じて専門的な知識を学ぶだけでなく、学生同士の議論や交流を通じて、自分では気づくことができなかった新たな視点や発想に触れる機会も多く、日々刺激を受けながら学びを深めています。

研究を進める中で、思い悩むことや壁に直面することもあります。そのたびに先生方や先輩方の温かいサポートに支えられ、常に前向きに研究に取り組むことができています。

大学院修了後は、ここで培った知識や専門性に加え、研究活動を通じて得られた思考力や情報分析能力を活かし、社会や実務の現場においても柔軟かつ論理的に物事に取り組み、持続的な発展に貢献していきたいと考えています。



地域産業専攻
地域流通領域
張 中弛
チョウ チュウチ

私は中国の湖北科技学院 (Hubei University of Science and Technology) を卒業し、日本文化や沖縄の経済に興味を持ち、関心を深めました。特に、観光業をはじめとする沖縄の地域経済の発展や、地元企業の成長戦略についてより体系的かつ専門的に学びたいと考えようになりました。このような背景から、実践的な研究環境が整っている本大学院への進学を決意しました。

実際に入学してみて、本学には学びに集中できる環境が整っていると感じています。大学院生専用の自習室があり、研究に必要な資料や設備も充実しているため、自分のペースでじっくりと研究を進めることができます。また、海の近くにあるキャンパスは開放的な環境に恵まれており、研究の合間にリフレッシュできる点も魅力の一つです。教授や学生同士の交流も活発で、さまざまな視点から意見を交わすことで、新たな発見があるのも刺激になります。

大学院での学びを通じて、沖縄経済の発展に貢献できるような視点を養い、将来的には地域に根ざしたビジネスや政策立案にも関わっていきたくと考えています。充実した学びの環境の中で、自分の興味を追求できることに感謝しながら、これからも研究を続けていきたいと思っています。

2024(令和6)年度
修了生修士論文
テーマ一覧

- 沖縄におけるブルー・ツーリズムの持続的発展に関する調査研究
～中華圏スクーバダイビング・スノーケリング観光客を対象に～
- ライブコマースにおける中国Z世代の衝動買いとその影響要因に関する考察
- 沖縄県における観光産業の高付加価値化に関する定量的研究
ー 中国人観光客の重回帰モデル分析とテキストマイニング分析を中心に ー

地域産業専攻 専任教員紹介

李 相典 教授
イ サンジョン

専門分野 観光マーケティング、デスティネーション・ブランド・マネジメント、観光客行動
担当科目 観光情報処理特論

主な著書・論文

・Moderated mediation analysis of tourist-based destination brand equity: Structural differences by tourist nationality
International Journal of Tourism Sciences, 21(1), 25-37
(論文)単著/Tourism Sciences Society of Korea/2019年

・デスティネーション・ブランド・エクイティの構造モデルにおけるデスティネーション・ブランド・エクスペリエンスの調整効果
日本国際観光学会論文集、第27巻、(論文)単著/日本国債観光学会/2020年

・The Relationship between Destination Brand Experience and Brand Trust: Difference by Travel Information Search Type
Asian Journal of Information and Communications, Vol 11(1)
(論文)単著/KISDI/2019年

主な著書・論文

主な著書・論文

岩橋 建治 教授
いわはし けんじ

専門分野 人的資源管理論、経営組織論
担当科目 人的資源管理特論

主な著書・論文

・沖縄県における主要業種の変遷
産業情報論集, 17(1) 7-22 (論文)単著/沖縄国際大学産業情報学部/2020年
・沖縄県内主要企業の盛衰 *産業と情報の科学* (論文)単著/東洋企画/2020年
・現代企業の経営戦略 *企業と社会が見える経営学概論* (論文)単著/大月書店/2019年

主な著書・論文

主な著書・論文

鵜池 幸雄 教授
ういけ ゆきお

専門分野 財務会計論、資金会計論
担当科目 財務会計特論

主な著書・論文

・現代の取引認識における簿記の役割-利益認識との関わりを中心として
(論文)単著/日本簿記学会年報/2014年
・農業発展に向けた簿記の役割－農業者のモデル別分析と提言－
共著/中央経済社/2014年
・包括利益計算と企業業績表示の一考察
*沖縄国際大学産業総合研究*第19号 (論文)単著/沖縄国際大学産業総合研究所/2011年

主な著書・論文

上江洲 薫 教授
うえず かおる

専門分野 観光地理学、観光地振興論
担当科目 地域資源経済特論

主な著書・論文

・沖縄県石垣島における環境協力金の認知度と環境目的税の導入意識
沖縄地理 第18号 (論文)単著/沖縄地理学会/2018年
・宮古島市における観光の環境化－環境保全とカーボン・オフセットの取り組み
沖縄宮古の挑戦 エコアイランドによる地域活性化 共著/文進印刷/2016年
・沖縄県内の大規模ホテルにおける廃棄物削減の取り組みと食品リサイクル
経済論集 第9巻第1号 (論文)単著/沖縄国際大学/2015年

※共著者・編著者名・編集(監修)団体名・収録ページは編集の都合上省略しております。

呉 錫畢 教授
オ・ソクピル

専門分野 環境経済学、厚生経済学
担当科目 環境経済特殊研究Ⅰ・Ⅱ、環境経済特論

主な著書・論文

・「韓国順天湾干潟と自然調和型の地域発展に関する一考察」
*経済論集*第16巻第1号 (論文)単著/沖縄国際大学/2025年
・干潟における環境・経済と地域発展
変わる沖縄－地域環境政策学の視点から－ (論文)単著/沖縄国際大学公開講座委員会/2019
・国立諫早湾干拓事業と地域発展に関する一考察
経済論集 第10巻第2号 (論文)単著/沖縄国際大学/2018年

大城 絢子 准教授
おおしろ あやこ

専門分野 知能情報工学
担当科目 意思決定特論

主な著書・論文

・共起ネットワークを用いた臨床研究関連法規の可視化
臨床薬理 55(1) (論文)共著/臨床薬理学会/2024年
・Deep-learning based analysis of the patterns associated with the changes in the Grit scores and understanding levels of students
International Journal of Advanced Computer Science and Applications, vol 14 (論文)単著/IJACSA/2023年
・データサイエンスで見た復帰50年 「復帰」50年と沖縄経済 単著/東洋企画 /2023年

小原 満春 准教授
おはら みつはる

専門分野 地域マーケティング、地域ブランド、移住
担当科目 商学特論、マーケティング・コミュニケーション特論

主な著書・論文

・観光者からライフスタイル移住者への語りの変化
－沖縄移住者の語りに基づく計量テキスト分析－
地域産業論叢 第20集 (論文)単著/沖縄国際大学大学院地域産業研究科/2025年
・ライフスタイル移住者の移住地からの離脱と関係人口への可能性－沖縄県の事例－
観光研究 特集号 (論文)単著/日本観光研究学会/2024年
・Z世代における菓子類土産品の購買要因に関する研究－世代間比較による検討－
産業総合研究 第33号 (論文)単著/沖縄国際大学産業総合研究所/2024年
・長期滞在者に対する市民意識と行政の役割
－釧路市に長期滞在事業に関する市民意識調査の結果から－
阪南論集 第60巻 第1号 (論文)共著/阪南大学学会/2024年
・沖縄の土産品における文脈価値に関する一考察
産業総合研究 第32号 (論文)単著/沖縄国際大学産業総合研究所/2023年

鹿毛 理恵 教授
かげ りえ

専門分野 アジア経済論、国際経済学、国際労働移動論
担当科目 地域経済政策特論

主な著書・論文

・沖縄県における外国人雇用の制度的展開と動向
経済論集 第16巻第1号 (論文)単著/沖縄国際大学大学院/2025年
・日本で暮らす留学生のための包括的セクシュアリティ教育：
調査結果に見るその必要性和教材の開発
Occasional Papers No.38 (論文)共著/上智大学アジア文化研究所/2024年
・アジアの貧困軽減と人的資源育成に対する日本の技能実習制度の貢献：
タイとスリランカの経験について
地域産業論叢 第19集 (論文)共著/沖縄国際大学大学院/2024年

叶 作義 准教授
かのう さくき

専門分野 開発経済学、環境経済学、地域発展論
担当科目 地域経済計量分析特論

主な著書・論文

・中国のCO₂排出量変化の要因分析
『産業情報論集』(沖縄国際大学) (論文)共著/沖縄国際大学産業情報学部/2025年
・中国におけるCCUSの現状と課題 *『中国産業情報動向』* (論文)単著/三菱UFJ銀行/2024年
・Recycling potential of cobalt metal from end-of-life new energy passenger vehicles in China
Waste Management & Research (論文)共著/SAGE PUBLICATIONS LTD/2024年
・Re-evaluating Service Trade from the Perspective of Service Intermediates in the Chinese Economy
Korea and the World Economy (論文)共著/The Association of Korean Economic Studies/2023年
・付加価値貿易－クロスボーダーの測定新方法
(英語名:Trade in Value Added : Developing New Measures of Cross-Border Trade)
電子媒体は世界銀行にてDL可(<https://openknowledge.worldbank.org/bitstreams/a005460d-6321-521b-af57-da9058a64001/download>) 共著/上海人民出版社/2020年

友知 政樹 教授
ともち まさき

専門分野 数理行動科学、ゲーム理論、社会ネットワーク分析、琉球独立論
担当科目 経済情報統計解析特論B

主な著書・論文

・A mathematical model for COVID-19 pandemic -SIIR model: Effects of asymptomatic individuals
Journal of General and Family Medicine, Volume 22 (論文)共著/2021年
・沖縄から全ての「基地」と「補助金」が無くなったら沖縄経済はどうなるのか？
変わる沖縄：地域環境政策学の視点から (論文)単著/沖縄国際大学公開講座委員会/2019年
・全基地撤去及び全補助金撤廃後の琉球(沖縄)経済に関する一考察
琉球独立学研究 第3号 (論文)単著/琉球民族独立総合研究学会/2016年

主な著書・論文

仲地 健 教授
なかち けん

専門分野 財政学、地方財政論
担当科目 財政学特論、財政学特殊研究Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・竹富島における入島税導入の可能性について
*『産業情報論集』*第18巻第1号 (論文)単著/沖縄国際大学産業情報学部/2021年
・沖縄振興特別措置法における高率補助に関する一考察
*『地方自治研究』*Vol.35, No.2. (論文)単著/日本地方自治研究学会/2020年
・医療ツーリズムと沖縄観光
*『産業総合研究』*第27号 (論文)単著/沖縄国際大学産業総合研究所/2019年

主な著書・論文

中野 謙 教授
なかの けん

専門分野 農業・食料経済、地域経済
担当科目 地域発展特論

主な著書・論文

・地域活性化に向けた観光資源の活用方法
－グリーンツーリズムにおける観光と教育の融合－
沖縄国際大学公開講座33 DX時代における地域活性化 (論文)単著/東洋企画/2024年
・コロナ禍における国際通り商店街の変化と展望
－DXによるポストコロナ時代への対応に関する一考察－
新時代の沖縄観光の諸相：コロナ禍とその後の挑戦 (論文)単著/泉文堂/2024年
・食肉ビジネス－国内鶏肉産業におけるアグリビジネスの新展開－
アグリビジネスと現代社会 (論文)単著/筑波書房/2021年

主な著書・論文

原田 優也 教授
はらだ ゆうや

専門分野 観光マーケティング、観光行動分析、アジア消費者行動、コンテンツビジネス
担当科目 マーケティング特殊研究Ⅰ・Ⅱ、マーケティング・マネジメント特論

主な著書・論文

・新型コロナウイルス(COVID-19)におけるパニック購買行動の概念分析
地域産業論叢 第16集 (論文)単著/2021年
・タイの近代的小売業の発展におけるセブンイレブンのビジネス展開
産業と情報の科学 (論文)単著/東洋企画/2020年
・私的空間におけるタイ新中間層の娯楽コンテンツ・シェアリング行動分析
産業情報論集 第14巻 第1&2合併号 (論文)単著/2018年

主な著書・論文

比嘉 正茂 教授
ひが まさしげ

専門分野 公共経済学、地域発展論、経済政策
担当科目 応用マクロ経済学特論

主な著書・論文

・沖縄振興予算に関わる国直轄事業の時系列的考察
地方自治研究 Vol.33, No.2 (論文)単著/日本地方自治研究学会/2018年
・沖縄振興予算の時系列的考察－国庫支出金の類似県比較を中心に－
地方自治研究, Vol.31, No.2 (論文)単著/日本地方自治研究学会/2016年
・内閣府沖縄担当部局予算－沖縄振興予算－
国と沖縄県の財政関係(池宮城秀正編) (論文)単著/清文社/2016年

前泊 博盛 教授
まえとまり ひろもり

専門分野 沖縄経済論、島嶼経済論、沖縄経済史、基地経済論、日米安保論、地位協定論
担当科目 沖縄経済特論、沖縄経済特殊研究Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・異次元の軍拡と沖縄～旧日本軍と自衛隊の”沖縄侵攻、の比較研究～
国際武器移転史 第18号 明治大学国際武器移転史研究所/2024年
・沖縄の産業と経済
*観光コースでない沖縄*第5版 高文研/2023年
・復帰後の沖縄振興と経済 及び第5部概説
沖縄県史 各論編7現代 第5部「復帰後の展開」 編著/沖縄県/2022年

主な著書・論文

前村 昌健 教授
まえむら しょうけん

専門分野 地方財政論 財政学
担当科目 地方財政特論

主な著書・論文

・渦状縮小型地域からの脱却と財政 明治大学政経論叢第87巻第3・4号 2019年
・歳出構造、地方債 国と沖縄県の財政関係 共著/清文社/2015年
・行政の情報化と電子政府
沖縄の観光・環境・情報産業の新展開 共著/泉文堂/2015年

主な著書・論文

宮城 和宏 教授
みやぎ かずひろ

専門分野 沖縄経済研究、産業組織論
担当科目 産業組織特論、産業組織特殊研究Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・沖縄振興の50年 「復帰」50年と沖縄経済 単著/東洋企画/2023年
・島しょ(離島)の所得が高いのはなぜか？
おきぎん調査月報 単著/おきぎん経済研究所/2023年
・ゲーム理論と行動経済学で考える米軍基地問題
沖縄経済入門 第2版 単著/東洋企画/2020年

主な著書・論文

村上 了太 教授
むらかみ りょうた

専門分野 企業形態論、公企業論
担当科目 地域社会経済システム特殊研究Ⅰ・Ⅱ、地域社会経済システム特論、公企業論

主な著書・論文

・沖縄の共同(売)店と奄美の地域商店の比較研究：
共同出資、法人格そして事業内容などを中心として
『地域産業論叢』(沖縄国際大学) 単著/沖縄国際大学大学院地域産業研究科/2024年
・ポスト株主資本主義の企業経営
*比較経営研究*第46号 (論文)単著/日本比較経営学会/2022年
・企業の社会的責任と社会的企業の経済的責任
共同売店の新たなかたちを求めて(*沖縄国際大学南島文化研究所叢書*) 編著/2020年

主な著書・論文

俞 炳強 教授
ゆ へいきょう

専門分野 地域資源経済論、開発経済論、データ分析
担当科目 経済情報統計解析特論A、経済情報統計解析特殊研究Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・COVID-19以降における国内観光需要の影響要因に関する考察
地域産業論叢 第20集 (論文)単著/沖縄国際大学大学院地域産業研究科/2025年
・沖縄におけるクルーズ船客の観光行動に関する統計的分析
地域産業論叢 第17集 (論文)単著/沖縄国際大学大学院地域産業研究科/2022年
・沖縄における外国人旅行者の満足度とロイヤルティの影響要因に関する計量分析
地域産業論叢 第16集 (論文)単著/沖縄国際大学大学院地域産業研究科/2021年



Graduate
School
of
Law

大学院 法学研究科

法律学
専攻

理念・目的

現在、政治・経済・社会の多くの分野でグローバル化が進行しています。21世紀の世界の秩序ある発展は、もはや個別国家の努力だけでは達成できません。一方、わが国に限って近未来を展望してみても、多くの分野（国家財政、産業、労働、少子化、年金問題等）で閉塞感が漂っています。

このような状況の下で知的創造組織としての大学（大学院）の果たすべき役割は、ますます重要になっています。法学研究科は、法学の分野からその責任の一端を果たすために、混沌の時代に柔軟かつ機敏に対応し、優れたリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。



法学研究科
研究科長

小西 由浩
Yoshihiro Konishi



法という拠り所

本学13号館にある法廷教室にはテミスあるいはユースティティアと呼ばれる「正義の女神像」が飾られています。片手に天秤（正邪の判断）を持ち、もう片方には剣（実力）を携え、さらに目隠し（平等）をした立ち姿はある種の恐怖を感じさせます。天秤の片方に乗ってしまったが最期、バツサリとやられてしまう。一人合点ですが、最後の手段としての法(ultima ratio legis)という言葉を見象化すれば、このような像になるのだと思います。争いや困りごとがどうにもならなくなったとき、女神が現れ、有無を言わず決着を付けてくれる。有り難いけど怖い。法というものに、こんな印象があることは否めません。

しかしながら、私たちの日常にある法は別の働きを見せてくれます。例えば、お腹を空かせた私がコンビニでパンを買い、それを食べて満足する。どうしてこのような

事が可能なのでしょうか。私が空腹であるという事実、お店にはたくさんのパンがあるという事実、この二つの組み合わせから起こり得ることは無限に考えられます。つまり、世界は自分で体験できる以上の複雑性に満ちており、多くの不確実性を孕むものといえるのです。これを確からしいものにするため、人は貨幣を媒介とする交換や契約といった複雑性を縮減するシステムを作り上げて、そこに秩序をもたらしました。法もそうしたシステムの一つであり、人の行為や相互のコミュニケーションに先立ち、それを意味づけ、どのように振る舞うべきかの指針となるのです。

法学研究科では、より複雑性を増す社会環境のなかで、高度な法的知識と法的思考力を拠り所に自らの途を開いていく志を持った人を迎え、それを習得する機会を提供しようとしております。

法学研究科がめざすもの

即戦力となる法律専門家の養成

激動する現代社会においては、高度でしかも専門的な法に関する知識や知的技能の提供が、社会の各方面から要請されています。本研究科は、本学卒業生、地方公務員、企業で働く民間人に対して、その再教育や研究、免許・資格の取得等の機会を提供し、より高度な法律専門家の養成をめざしています。



インターンシップによる 実務界の体験

本研究科では、インターンシップを導入しています。この就業体験を通して、現実社会の法律に関わる諸問題に接し、法的思考上の対応力等を養うことができます。インターンシップは、院生自身の職業能力の向上および自己理解の促進をはじめ、これまで学んだ知識を確認し、研究すべき課題の所在や方向性を見出すことになります。また、修了後は即戦力となりうる法律専門家として、社会での大きな活躍が期待できます。



社会に基礎を置く、 社会のための法学教育

沖縄県は、海外に多くの移民を送り出してきたばかりでなく、同じく海外から多くの外国人を受け入れています。これらの人々や一般市民が求めるリーガル・サービスに応じるためには、県内社会に密着した法律に関する国際的な視野をもつ法学教育・研究の推進が必要となります。社会に基礎を置く、社会のための法学教育は、本研究科の沖縄社会に対する一つの使命だといえます。

生涯学習時代における 知的技能の活性化

本研究科は、入学要件さえ整っていれば、どの年齢からでも入学でき、多様化した市民の学習意欲に応えています。教員の専修免許のほか、税務・会計業務、民事・商事・法務分野における高度の免許・資格を取得したいという要求、また昼間公務員として働く人がより充実した仕事を実現するために必要な科目の専門的知識・技能を修得したいという要求に応えています。

社会のための 行政専門家の育成

沖縄県の将来の発展を考えると、基地問題、雇用問題、島嶼性、県外への経済・財政依存度の高さなど特有の諸問題に対し、法的にそれをどのようにとらえ、かつ対処していくかが問題となります。これらの問題解決のためには、自治体の政策形成能力やその政策立案（立法化）・調整・実行等の諸能力を育成・強化しなければなりません。また、市民生活の向上や県内の産業経済の発展などを推進する場合、そこに生ずる多様で困難な法律問題や行政的課題の解決にその力を発揮し得る行政や法律の専門家が必要となります。

本研究科は、沖縄社会の活性化とその発展に貢献し、行政に関する知識や技術を身につけた人材育成もめざしています。



多様な教育法による法の実像への接近

法学研究科においては、前期と後期のセメスター制を採用し、前期末に集中講義期間を設けています。実定法の教育においてはディベート、ケーススタディ、ソクラテスメソッドを採用しています。

地域社会の法的諸問題の研究の支援

沖縄においては、基地問題に直接・間接に起因する法的諸問題のほか、独特の文化、歴史、社会構造のなかで育まれてきた地域の慣習が残存しています。地域社会のマクロからミクロに至るまでの様々な法的諸問題の研究推進のために、法学研究科は、学内研究所と協力しながら、相互の調査、研究、資料の収集・利用の拡大を目指しています。

法政策と法解釈の相互補完的研究の推進

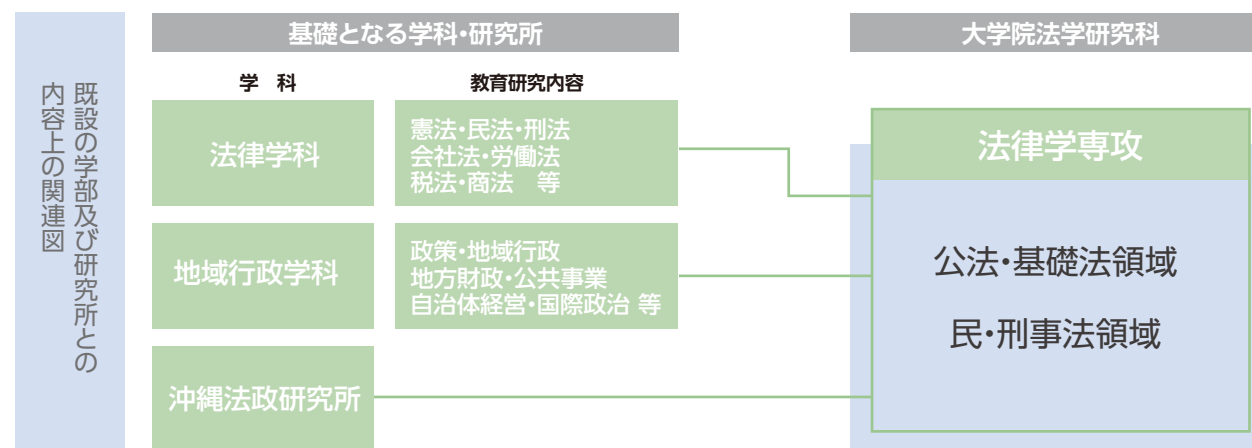
法学研究科においては、法の研究を、教育・研究の便宜上、法政策に関係の深い分野（公法・基礎法領域）と法解釈に関係の深い分野（民・刑事法領域）に大きく二分しています。

実務と研究との有機的結合

法学研究科では、実際の経験（現場教育On the Job Training）こそ最高の教育であるとの理念の下にインターンシップを開講しています。インターンシップにおいて、院生は、受け入れ先職場の責任者の指揮・監督に従い、調査・インタビュー等により収集した事実を基礎にして、実際の事例をどのように法的に解決すべきかについて法的判断を下す経験を積むことができます。

基礎となる学科・研究所

法学研究科は、法学部の法律学科、地域行政学科を基礎として設置されています。
また沖縄法政研究所は、本研究科を支える重要な関連施設です。



教育課程の構成

教育課程は大別して公法・基礎法領域、民・刑事法領域の2領域から構成されています。

公法・基礎法領域

公法・基礎法領域は、憲法、行政法、国際法等の実定法および法哲学の基礎法から構成されています。本領域では、国家と国民の関係を規律する公法のあり方について、またこれら実定法の基礎となる法の思想的、歴史的、社会的前提について研究します。

民・刑事法領域

民・刑事法領域は、民法、商法、刑法等の実体法および民事訴訟法、刑事訴訟法の手続法から構成されています。本領域では、現行法を具体的な事例に適用して司法的解決を図るために、法令の解釈についてわが国内外の判例・学説と比較しつつ、体系的に研究します。



沖縄国際大学大学院 法律学専攻 3つのポリシー

●ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

法学研究科は、建学の精神を踏まえて、法学に関する高度で専門的な知識を有する人材を養成することをその教育目的としています。この目的のために、学位授与の方針は以下のようになっています。

1. 法学に関する高度な知識を有し、社会のさまざまな問題に対して法的思考をもって解決する能力を備えていること。
2. 法学に関する研究を自立して遂行することができ、その内容を修士論文として作成することができる研究能力を有していること。
3. 法学に関する高度の専門性が要求される職業に必要な能力を有していること。

●カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

法学研究科は、その教育目的を達成するために、カリキュラムに関しては以下のような特色を持っています。

1. 公法・基礎法領域および民・刑事法領域の2つの領域の中から、自らの関心や将来の進路に応じて多様な法分野に関する特殊研究を選択することを可能とし、きめ細やかな研究指導体制を構築しています。
2. 集中講義を開講し、県外から講師を招聘して、最新の法律問題や理論に触れる機会を設けています。
3. 社会人学生への配慮として、講義科目は主として夜間に開講しています。

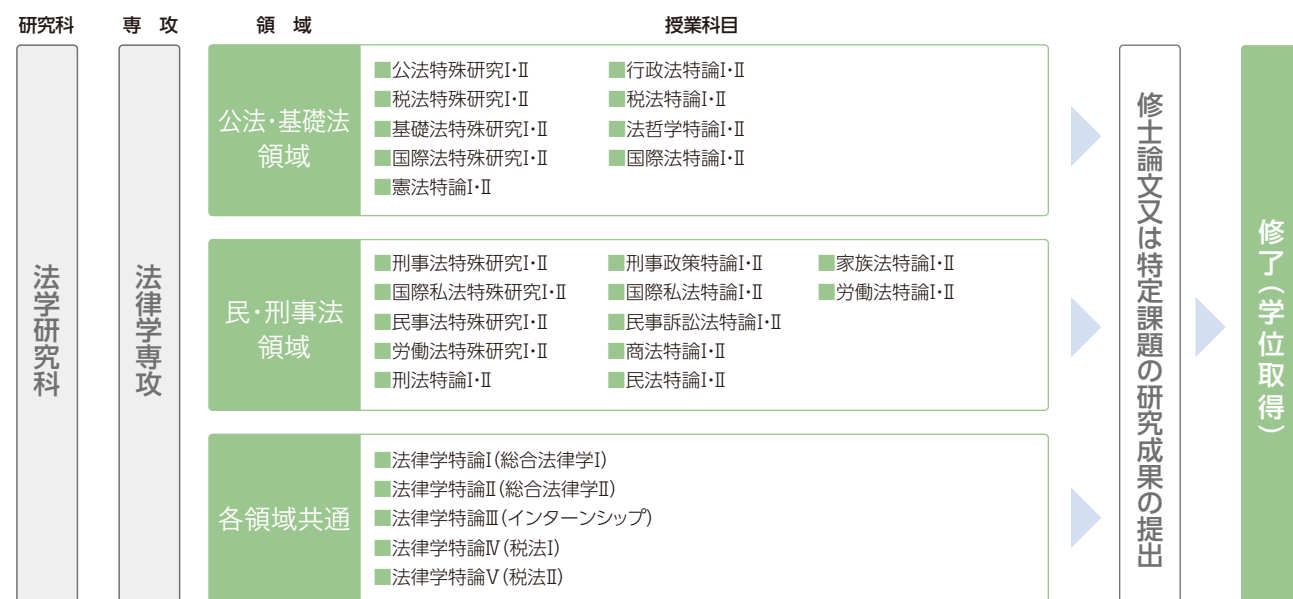
●アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

法学研究科では、その教育目的を達成するために、入学者には、大学卒業程度の基礎的学力を持っていることを前提として、特に以下の点について十分な適性をもっていることを望みます。

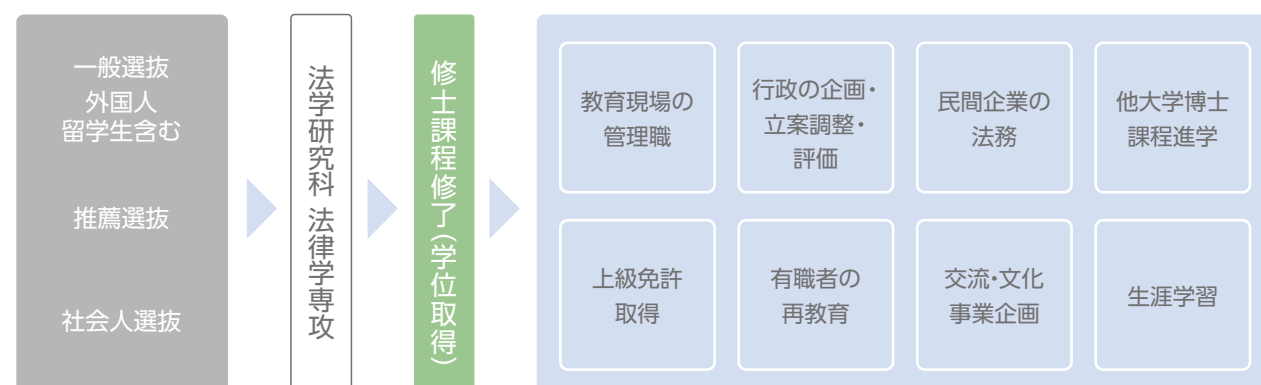
1. 法学に関して深い関心をもち、自ら学び研究する意欲を持っている人物
2. 法学の諸分野において、自らの問題意識から課題を設定して、修士論文を作成する強い意思を持っている人物
3. 法学に関する高度な専門的知識を持つ職業人として、地域社会および国際社会の一員として活動することを希望する人物



専攻内容



修了後の進路



院生からのメッセージ


 法学専攻
公法・基礎法領域
松崎 聖良
まつざき せいら

私は本校法学部を卒業後、金融機関に就職しました。私は融資担当として採用されたため、融資を通じて社会経済の発展に貢献したいという思いから、法律、金融、会計を中心とした学習を行ってきました。しかし、学習を深めていくにつれて、これら三つの知識を活かせる「税理士」という職業に興味を持ちました。このまま融資担当としてのキャリアを積み重ねるか、難関資格である税理士に挑戦するか迷いましたが、本校大学院の入学試験に合格したことをきっかけに退職を決意し、税理士を目指すことに決めました。

法学専攻の院生は全員が税理士志望であり、実務経験者においては業界内の情報共有ができる良い環境です。実務経験がない方でも、税理士試験で勉強した内容と実務の取り扱いの違いを学べることは有用だと思います。講義内容は税法論文の執筆がメインですが、民法等の基礎的な法律も学ぶことができるため、非常に良いカリキュラムです。

私は現在税理士法人に勤務していますが、未経験の業界ということもあって分からないことだらけです。しかし、大学院での学習を通じて、疑問に対しては徹底的に調べ上げるという力を養うことができました。将来は税務に加えて、事業経営サポートが可能な税理士を目指していきます。


 法学専攻
公法・基礎法領域
大本 織佳
おおもと おりか

私は沖縄国際大学の産業情報学部から本大学院に進学しました。学部の講義を通して、会計や税法、マーケティングを学ぶ中で、税理士という職業に興味を持ち、法学研究科に進学することを決めました。法学部出身ではなかったのですが、先生方の丁寧な指導のおかげで研究に取り組むことができています。

大学院での学びは、税法の知識を深めるだけでなく、論理的思考力や調査・分析能力を養う貴重な機会となります。私自身、大学院での学びを通じて、税法の条文解釈や判例分析の重要性を実感しました。税法は頻繁に改正されるため、条文を単に暗記するのではなく、その背景や趣旨を理解することが不可欠です。本研究科では、先生方の丁寧な指導のもと、税法を体系的に学ぶことができ、実務で求められる応用力を身につけることができます。

また、本大学院は税理士志望の方が多く、税理士試験の対策についても話をきくことができます。

沖縄国際大学大学院法学研究科は、税理士を目指す方にとって最適な学びの環境が整っています。

本大学院修了後は、沖縄の企業をサポートする税理士を目指していきたいです。

2024(令和6)年度
修了生修士論文
テーマ一覧

- 貸倒損失と部分貸倒れについての一考察
- 公益法人等に対する収益事業課税制度についての一考察
- 生命保険金の非課税所得該当性についての一考察
- 第二次納税義務制度にかかる一考察 ―第二次納税義務者の権利救済について―
- 源泉徴収義務についての一考察 ―役員等による横領等と源泉徴収の要否の問題を中心に―



法律学専攻 専任教員紹介

※共著者・編著者名・編集(監修)団体名・収録ページは編集の都合上省略しております。

青木 洋英 准教授
あおき ひろよし

専門分野 憲法、動物法

担当科目 憲法特論Ⅰ、憲法特論Ⅱ

主な著書・論文

・憲法上の権利としての動物の権利の構想：
Martha C. Nussbaumの議論を手掛かりとして
憲法理論叢書32 憲法問題の新展開 共著/敬文堂/2024年

・畜産動物の動物福祉に関するカリフォルニア州法と眠れる通商条項
比較法雑誌 58巻2号 (論文) 単著/日本比較法研究所/2024年

・人権享有主体性:人間以外の動物にも基本的人権は保障されるだろうか？
基礎演習ゼミ 憲法 共著/みらい/2024年

・判例評釈:トランス女性の国家公務員に対するトイレ使用制限等
白門 857号 (論文) 単著/中央大学通信教育部/2023年

・信仰としての動物保護と信教の自由：
アメリカにおける解剖実習受講拒否の事例を中心に
宗教法 42号 (論文) 単著/宗教法学会/2023年

上江洲 純子 教授
うえず じゅんこ

専門分野 民事訴訟法・倒産法

担当科目 民事訴訟法特論Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・再生債務者が投資信託の解約金支払債務を受働債権としてする相殺の可否
沖縄法学 第44号 単著/沖縄国際大学法学会/2015年

・再生手続の機関・費用—実証データからみえる手続機関の役割
民事再生法の実証的研究 共著/商事法務/2014年

・再建型倒産手続と整理解雇法理(Ⅰ)(Ⅱ)
慶應法学 第26号・第28号 (論文) 共著/慶應義塾大学法科大学院/2013・2014年

・再建型倒産手続における労働者の処遇
—「倒産労働法」確立への足掛かりとして
倒産法改正展望 (論文) 単著/商事法務/2012年

・所有権留保と民事再生
平成22年度重要判例解説 単著/有斐閣/2011年

熊谷 久世 教授
くまがい ひさひろ

専門分野 国際私法、国際民事訴訟法

担当科目 国際私法特論Ⅰ・Ⅱ、家族法特論Ⅰ・Ⅱ、国際私法特殊研究Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・自筆証書遺言における押印要件と花押
名城法学72巻1・2号 (論文) 単著/名城大学/2022年

・母への親権者変更を認めないイラン・イスラム法と国際私法上の公序
新・判例解説Watch (論文) 単著/日本評論社/2012年

・ハーグ子の奪取条約のわが国の批准と沖縄の抱える課題
沖縄法学41巻 (論文) 共著/沖縄国際大学/2012年

・外国における代理出産とわが国の公序
沖縄法学38巻 (論文) 共著/沖縄国際大学/2009年

・嫡出の決定(福岡家裁判平成元年5月15日審判)
ジュリスト国際私法判例百選(新法対応補正版) (論文) 単著/有斐閣/2007年

小西 由浩 教授
こにし よしひろ

専門分野 刑事政策

担当科目 刑事法特殊研究Ⅰ・Ⅱ、刑事政策特論Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・犯罪のリスク／犯罪の危険
沖縄法学 第33号 (論文) 単著/沖縄国際大学法学会/2004年

末崎 衛 教授
すえざき まもる

専門分野 税法

担当科目 税法特論Ⅰ・Ⅱ、税法特殊研究Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・演習ノート租税法(第3版)
分担執筆/法学書院/2013年

・課税処分 of 違法を理由とする国家賠償請求の可否
沖縄法学39号 (論文) 単著/沖縄国際大学法学会/2010年

・遺産分割の錯誤無効と更正の請求
税法学561号 (論文) 単著/日本税法学会/2009年

・「租税回避目的」と契約解釈—
「私法上の法律構成による否認」論の批判的検討
税法学560号 (論文) 単著/日本税法学会/2008年

伊達 竜太郎 教授
だて りゅうたろう

専門分野 会社法、国際取引法、沖縄の経済政策と法(沖縄経済特区など)

担当科目 商法特論Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・国際取引法入門
共著/有斐閣/2024年

・「ビジネスと人権」に関わる取締役の責任
～米国法とEU法の議論を参考に～
国際取引法学会年報 8号 (論文) 単著/大学教育出版/2023年

・会社従属法における設立準拠法の適用範囲
～アメリカの内部事項理論を参考に～
国際私法年報 23号 (論文) 単著/信山社/2022年

・スタンダード商法シリーズ・会社法(第2版)
共著/法律文化社/2022年

・SDGs／ESG時代における企業法と沖縄経済特区
人権2021 (論文) 単著/沖縄国際大学/2022年

田中 稔 教授
たなか みのる

専門分野 民法学、損害賠償法

担当科目 民法特論Ⅰ・Ⅱ、民事法特殊研究Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・債務の目的物の価格が履行不能後値上りを続けてきた場合における
損害賠償額の算定時期[最高裁第一小法廷昭和47.4.20判決]
沖縄法学43号 単著/沖縄国際大学法学会/2014年

・不動産登記法の解説 単著/ネットスクール/2011年

・わが国における損害賠償額の算定時期
沖縄法政研究12号 単著/沖縄法政研究所/2009年

・自賠法73条1項にいう「損害のてん補に相当する給付を
受けるべき場合」について
損害保険研究71巻2号 単著/損害保険事業総合研究所/2009年

・損害賠償債務の一部の提供・供託の効果について
沖縄法学32号 単著/沖縄国際大学法学会/2003年

中野 正剛 教授
なかの せいごう

専門分野 刑事法学

担当科目 刑法特論Ⅰ・Ⅱ、刑事法特殊研究Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・社会秩序無価値説の構想
単著／成文堂／2024年

・不能犯論
新倉修先生古希祝賀論文集 (論文) 単著/現代人文社/2019年

・不能犯論・覚書
理論刑法学の探求⑩ (論文) 単著/成文堂/2017年

・オルトランの未遂犯論
刑法雑誌55巻2号 (論文) 単著/有斐閣/2016年

・少年の責任とは何か？
NCCD 125号 (論文) 単著/全国犯罪非行協議会/2015年

・未遂犯論の基礎
単著/成文堂/2014年

西迫 大祐 教授
にしきこ だいすけ

専門分野 法哲学、フランス現代思想

担当科目 法哲学特論Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・公衆の健康とは何か ― 公衆衛生の系譜学
社会防衛と自由の哲学 (論文) 単著/丸善出版/2024年

・予防接種の義務化と奨励策をめぐる法哲学
法律時報 (論文) 単著/日本評論社/2023年

・感染症の統治と良き市民たち
倫理学年報 (論文) 単著/日本倫理学会/2023年

・新型コロナウイルス禍と人権
人権2021 (論文) 単著/沖縄国際大学公開講座委員会/2022年

・配慮と不安を遠ざけるもの
フーコー研究 (論文) 単著/岩波書店/2021年

比屋定 泰治 教授
ひやじょう やすはる

専門分野 国際法

担当科目 国際法特論Ⅰ・Ⅱ、国際法特殊研究Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・武力行使禁止と自衛権(第1章)
国際法入門 逆から学ぶ(第3版) 共著/法律文化社/2022年

・外国の「軍事的活動」に対する民事裁判権行使の可能性
沖縄法学49号 (論文) 単著/沖縄国際大学法学会/2021年

・日米地位協定における「軍属」の範囲:コントラクターの位置づけ
沖縄法学47号 (論文) 単著/沖縄国際大学法学会/2019年

・地位協定から日米関係を問う—刑事裁判権規定の形成過程
危機の時代と「知」の挑戦(下) (論文) 単著/論創社/2018年

・第3次嘉手納対米訴訟における対外国民事裁判権法の解釈適用
新・判例解説Watch 単著／日本評論社／2018年

松井 有美 准教授
まつい ゆみ

専門分野 労働法、社会保障法

担当科目 労働法特論Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・台湾における労働基本権の保障と労働組合の現状
沖縄法政研究第26号 (論文) 単著/沖縄法政研究所/2024年

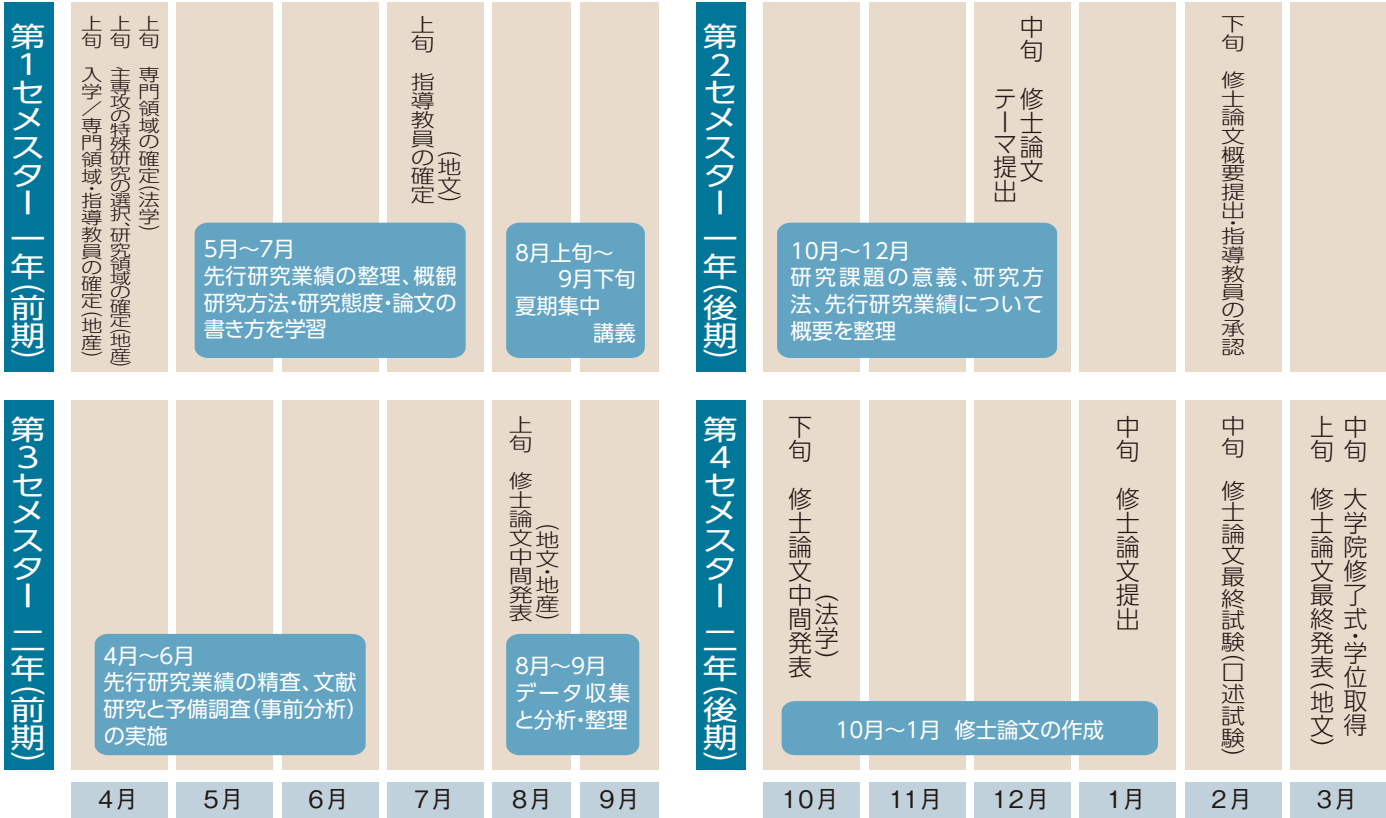
・船員の集団的労使関係と法
政大労働学報第33期 (論文) 単著/國立政治大學勞工研究所/2023年

・超企業的な労使関係をめぐる法的課題
日本労働法学会誌136号 (論文) 単著/日本労働法学会/2023年

・法適合組合と使用者概念一・二
阪大法学第71巻 第1・2号 (論文) 単著/大阪大学法学会/2021年

・合同労組の意義と組織的特徴から生じる労組法上の課題一・二
阪大法学第 69巻 第 5・6号 (論文) 単著/大阪大学法学会/2020年

大学院の入学から修了まで



教育・研究を支援する様々な制度

昼夜開講制

社会人や有職者が受講しやすいように、夜間を中心に午前9時から午後9時40分までの時間帯に講義を開講しています。集中講義も主に夜間の時間帯に開講が予定されています。

セメスター制

本大学院はセメスター制を導入しているため、休学や復学が学期ごとに可能で、修了までの学習計画が立てやすくなっています。これにより、社会人や有職者へのより柔軟な学習機会の提供を可能にしています。

長期履修生制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限を超える一定の期間内に計画的に履修し、修了を目指すことができる制度です。申請が認められた場合、標準修業年限経過後の授業料等が減額され、経済的負担が軽減されます。

再入学制度

過去に本大学院を退学又は除籍した者が、前学籍と同一の研究科・専攻・領域に入学し、修了を目指すための制度です。

科目等履修生

本大学院において開設される授業科目のうち、希望科目のみを履修する制度です。履修した授業科目について試験を受け、合格した場合は所定の単位を修得することができますが、履修できる単位数は年間12単位以内です。

補完的な教育

ー学士課程の授業科目の履修促進ー

学部の科目等履修制度を活用し、修士課程の履修に必要な学修を補完する教育の提供を行っています。詳しくは、沖縄国際大学学務課学務二担当（TEL 098-893-8950）までお問合せ下さい。

大学院研究生

原則として本大学院修士課程を修了した者で、特定のテーマについて研究指導を受けることを目的に本学に籍をおく者です。在籍期間は1年で、研究期間が終了する2ヶ月前に研究成果を提出し、審査を受けなければなりません。なお、学位および単位の修得はできません。

単位互換制度

沖縄県4大学（沖縄大学、沖縄国際大学、名桜大学、琉球大学）の人文社会科学系大学院間の単位互換に関する協定に基づき、他大学院で科目履修および単位の修得ができる制度です。指導教員と相談のうえ履修科目を決定し、当該科目を提供する協定大学院の定める登録手続きを行うことにより受講することができます。

本大学院で取得できる資格

教員専修免許状			
研究科名	専攻名	教員免許状の種類	免許教科
地域文化研究科	南島文化専攻	中学校教諭専修免許状	国語
		中学校教諭専修免許状	社会
		高等学校教諭専修免許状	国語
		高等学校教諭専修免許状	地理歴史
		高等学校教諭専修免許状	公民
	英米言語文化専攻	中学校教諭専修免許状	英語
		高等学校教諭専修免許状	英語
	人間福祉専攻 臨床心理学領域	高等学校教諭専修免許状	公民
		高等学校教諭専修免許状	公民
地域産業研究科	地域産業専攻	中学校教諭専修免許状	社会
		高等学校教諭専修免許状	公民
		高等学校教諭専修免許状	商業
		高等学校教諭専修免許状	情報
法学研究科	法律学専攻	中学校教諭専修免許状	社会
		高等学校教諭専修免許状	公民

※当該教科の第1種免許状を取得していること。 ※大学院当該専攻の所定単位を24単位以上取得すること。
※修士の学位を取得すること(1年以上在学し、30単位以上取得した場合を含む)。
※2023年度から、星槎大学との連携により、中・高校教諭免許状を取得済みであることを条件として、小学校教諭二種免許状の取得が可能となりました。
詳細については小学校課程に関する説明会にてご確認頂くか、学務課教職担当までお問合せください。

専門社会調査士

専門社会調査士とは、一般社団法人 社会調査協会が認定する資格であり、社会調査の問題点や妥当性等の指摘はもちろんのこと、多様な調査手法を用いた調査企画能力、実際の調査を運営管理する能力、高度な分析手法による報告書執筆などの実践能力を有する者に与えられます。専門社会調査士資格を取得するためには、社会調査士資格を取得した上で、一般社団法人 社会調査協会が設定した標準カリキュラムであるH～J科目に対応する3科目の単位を取得する必要があります。本研究科では、この3科目に対応する科目を、下記のように開設しています。

	社会調査士資格認定機構指定科目	科目概要	本大学院開講科目	単位
H	調査企画・設計に関する 演習(実習)科目	社会調査を実践的に企画・設計し、実施し、分析・集計をおこなうための実践的な知識と能力を習得する科目。	南島地理学特論Ⅰ	2
			社会学研究法特論	2
I	多変量解析に関する 演習(実習)科目	多変量解析に共通する計量モデルを用いた分析法を基本的に理解し、コンピュータを用いて実際に使用することのできる能力を習得する科目。	社会統計学特論	2
J	質的調査法に関する 演習(実習)科目	質的データの分析法を習得するとともに、質的調査法に関する基本的理解を踏まえながら、そのものについての実践的な能力を習得する科目。	比較社会文化特論Ⅱ	2

※社会調査士資格を有すること。 ※標準カリキュラムH～Jに対応した科目単位を取得すること。
※社会調査結果を用いた修士論文を執筆すること。 ※修士課程(南島文化専攻)を修了すること。

入学金および諸学費

種別		金額(円)	種別		金額(円)
入学金		120,000	後援会費	年額	12,000
			校友会費	終身会費	20,000
授業料	前期	185,000	学生保険料	在学期間 (2年分)	2,430
	後期	185,000			
施設設備資金	前期	50,000	合 計(初年度納入金)		624,430
	後期	50,000			

※入学金は本学卒業生は半額。

※校友会費は本学卒業生は免除。

奨学金制度

大学院研究奨励奨学金

大学院に在学する学生に対し、奨学金を給付することによって大学院に期待される高度な学習活動および研究活動を奨励し、標準修業年限内に充実した研究成果をあげさせることを目的として給付します。

支給対象者は学業・人物ともに優れ、標準修業年限内に修了見込みの者で、支給額は授業料の半額相当額を給付します。

長濱眞徳博士記念大学院奨学金

大学院に在学する学生に対して、標準修業年限内で大学院に期待される高度な学習活動および研究活動を奨励し、充実した研究成果をあげさせることを目的として、年額100,000円を給付します。

波平勇夫大学院博士課程奨学金

大学院修士課程修了見込者及び大学院研究生で、大学院博士後期課程に進学が決定している学生に対し給付します。奨学金の給付額は、1人年額100,000円です。

沖縄国際大学後援会奨学金

学業・人物ともに良好で、家計支持者の事情で修学が困難な学生に対し授業料の半額相当額を給付します。

沖縄国際大学外国人留学生奨学金

本学正規課程に在籍し、「留学」の在留資格を有する私費外国人留学生で人物、学業ともに優秀かつ国内外の教育、研究、国際交流等の促進に寄与する者に対し、授業料の半額相当分(185,000円)を給付します。

研究環境

13号館
13号館は大学院の機能を有する施設です。講義室のほかに資料室、自習室、共同研究室(パソコン・コピー機設置)等を備えています。

図書館
大学院生の研究活動を支援する目的として、2階及び地下2階に研究個室(パソコン常置)を21室設置しています。図書予約は貸出中のものであってもWeb経由で可能です。また、本学図書館で所蔵していない資料を他機関から「文献複写」や「相互貸借」で取り寄せることができるILL(図書館間相互利用)サービスもWeb経由で申込みが可能です。利用方法等はカウンターにてお問い合わせください。また、データベース等を利用した資料収集方法を案内するステップアップガイダンスやレファレンスサービスを実施し、よりの確で効率的な研究活動を支援しています。

研究所
本学には、南島文化研究所、産業総合研究所、沖縄法政研究所、沖縄経済環境研究所が設置されています。これらの研究所は、独自の地域研究を行うとともに、研究成果を地域に還元しています。研究会やセミナー等は、大学院生にも広く活用されています。



沖縄国際大学校友会留学生奨学金

学業・人物ともに優秀で、経済的理由により修学困難な私費外国人留学生に対し、年額50,000円を給付します。

公益財団法人ロータリー米山記念奨学金

日本国外の国籍を有し、学業・人物ともに優秀で、米山奨学生選考委員会で実施する書類および面接選考に合格したのに対し、月額140,000円を給付します。

公益財団法人平和中島財団外国人留学生奨学金

日本の大学に在籍する私費留学生で、学業・人物ともに優秀であり、経済的援助を必要とする者に対して、選考の上、月額150,000円を1年間給付します。

日本学生支援機構奨学金

学業・人物ともに優れ、経済的理由により修学が困難な者に対して募集・選考し、奨学金貸与を行います。

日本学生支援機構奨学金には第一種(無利子)と第二種(有利子)があり貸与月額は、第一種50,000円または88,000円、第二種は50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円の中から選択。

入学者選抜試験日程

前期日程	一般選抜試験 推薦選抜試験		社会人選抜試験 外国人特別選抜試験	
	試験日	出願期間	合格発表	
	2025年 9月28日(日)	2025年 8月12日(火)～8月19日(火)	2025年 10月23日(木) 午前11時	

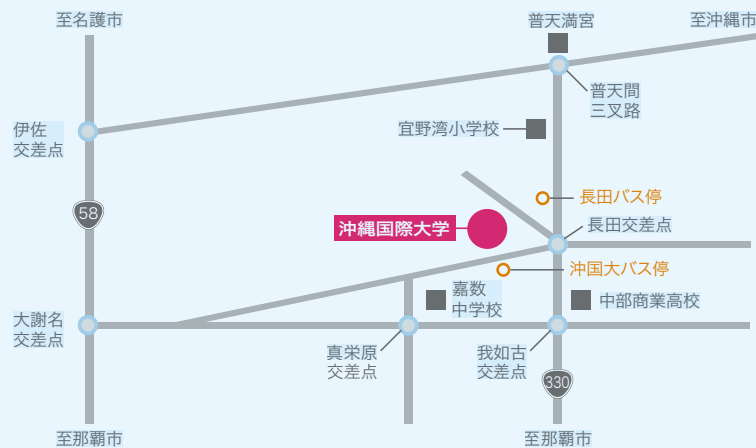
後期日程	一般選抜試験 推薦選抜試験		社会人選抜試験 外国人特別選抜試験	
	試験日	出願期間	合格発表	
	2026年 1月25日(日)	2025年 12月5日(金)～12月12日(金)	2026年 2月12日(木) 午前11時	

2025(令和7)年度 大学院入学者選抜試験 志願者数・合格者数																
研究科・専攻・領域			志願者数							合格者数						
			推薦	一般	社会人	外国人	出願資格 審査	出願資格 審査合格者	合計	推薦	一般	社会人	外国人	出願資格 審査	出願資格 審査合格者	合計
地域文化研究科	南島文化 専攻	言語文化	2	1	1	—	0	0	4	2	0	1	—	0	0	3
		民俗文化	0	0	1	—	0	0	1	0	0	1	—	0	0	1
		先史・歴史文化	1	0	0	—	0	0	1	1	0	0	—	0	0	1
		社会文化	1	0	0	—	0	0	1	1	0	0	—	0	0	1
		小 計	4	1	2	—	0	0	7	4	0	2	—	0	0	6
	英米言語 文化専攻	英米文学	1	0	0	—	0	0	1	1	0	0	—	0	0	1
		言語教育学	1	1	1	—	0	0	3	1	1	1	—	0	0	3
		小 計	2	1	1	—	0	0	4	2	1	1	—	0	0	4
	人間福祉 専攻	社会福祉学	0	1	1	—	—	—	2	0	1	1	—	—	—	2
		臨床心理学	0	15	2	—	—	—	17	0	5	0	—	—	—	5
		小 計	0	16	3	—	—	—	19	0	6	1	—	—	—	7
	合 計		6	18	6	—	0	0	30	6	7	4	0	0	0	17
地域産業研究科	地域産業 専攻	経 済	0	0	0	0	—	—	0	0	0	0	0	—	—	0
		沖縄・環境経済	0	0	0	0	—	—	0	0	0	0	0	—	—	0
		経 営	0	0	0	1	—	—	1	0	0	0	1	—	—	1
		産業情報	0	0	0	0	—	—	0	0	0	0	0	—	—	0
		財 政	0	0	0	0	—	—	0	0	0	0	0	—	—	0
	合 計		0	0	0	1	—	—	1	0	0	0	1	—	—	1
法学研究科	法律学 専攻	公法・基礎法	4	9	15	—	3	1	32	2	2	2	—	2	0	8
		民・刑事法	0	0	0	—	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0
	合 計		4	9	15	—	3	1	32	2	2	2	—	2	0	8
総 合 計			10	27	21	1	3	1	63	8	9	6	1	2	0	26

研究科説明会

地域文化研究科	●南島文化専攻 日時:2025年7月12日(土) 13:00～14:00 場所:言語文化:5号館308教室、民俗文化:5号館307教室 先史・歴史文化:5号館310教室、社会文化:5号館311教室	
	●英米言語文化専攻 日時:2025年7月5日(土) 13:00～14:00 場所:5号館314教室	
地域産業研究科	●人間福祉専攻(社会福祉学領域) 日時:2025年7月19日(土) 11:00～ 場所:3号館105教室	
	●人間福祉専攻(臨床心理学領域) 日時:2025年7月5日(土) 13:00～ 場所:3号館105教室	
地域産業研究科		日時:2025年7月26日(土) 13:00～13:30 場所:13号館301教室
法学研究科	日時:2025年6月21日(土) 10:00～ 場所:13号館502教室	
	日時:2025年11月1日(土) 10:00～ 場所:13号館502教室	

※開催日時や開催方法に変更が生じた場合はホームページでご案内いたします。



○ 空港・那覇南部方面からのアクセス

路線バス

所要時間: 約70分	
♀バス停: 国内線旅客ターミナル前より乗車	♀バス停: 長田下車、徒歩約7分
125 普天間空港線 (20分～1時間間隔)	

モノレール ▶ 路線バス

所要時間: 約11分
旭橋駅下車、 那覇バスターミナル隣接

路線バスのりかえ

所要時間: 約50分	
♀バス停: 那覇バスターミナルより乗車	
90 知花線 (15～30分間隔)	♀バス停: 長田下車、徒歩約7分
92 那覇～イオンモール線 (1日4本)	♀バス停: 長田下車、徒歩約7分
98 琉大線 (20～30分間隔)	♀バス停: 沖縄国際大学前下車
110 長田具志川線 (30分～1時間間隔)	♀バス停: 沖縄国際大学前下車
21 新都心具志川線 (30～40分間隔)	♀バス停: 長田下車、徒歩約7分
24 那覇大謝名線 (30～40分間隔)	♀バス停: 長田下車、徒歩約7分
27 屋慶名(やけな)線 (20～60分間隔)	♀バス停: 長田下車、徒歩約7分
25 那覇普天間線 (30～40分間隔)	♀バス停: 長田下車、徒歩約7分
※午前9時台以降の出発バスはなし	

所要時間: 約37分
てだこ浦西駅下車

所要時間: 約20分
♀バス停: てだこ浦西駅より乗車
297 冲国琉大快速線 (1日7本)
♀バス停: 沖縄国際大学前下車

所要時間: 約37分
てだこ浦西駅下車

所要時間: 約26分
♀バス停: 西原入口より乗車
97 琉大線 (20～30分間隔)
♀バス停: 長田下車、徒歩約7分
125 普天間空港線 (20～60分間隔)
♀バス停: 長田下車、徒歩約7分

タクシー

所要時間: 約40分

高速バス ▶ 路線バス

所要時間: 約40分	
♀バス停: 国内線旅客ターミナル前より乗車	路線バスのりかえ
111 高速バス (30分間隔) ♀バス停: 琉大入口下車、徒歩約3分	所要時間: 約10分
152 高速バス (1日4本) ♀バス停: 琉大入口下車、徒歩約3分	♀バス停: 琉大北口駐車場より乗車
	98 琉大線 (20～30分間隔) ♀バス停: 沖縄国際大学前下車
	297 冲国琉大快速線 (1日7本) ♀バス停: 沖縄国際大学前下車

○ 北部方面からのアクセス

高速バス ▶ 路線バス

所要時間: 約70分	
♀バス停: 名護バスターミナルより乗車	路線バスのりかえ
111 高速バス (30分間隔) ♀バス停: 琉大入口下車、徒歩約3分	所要時間: 約10分
	♀バス停: 琉大北口駐車場より乗車
	98 琉大線 (20～30分間隔) ♀バス停: 沖縄国際大学前下車
	297 冲国琉大快速線 (1日7本) ♀バス停: 沖縄国際大学前下車

路線バス ▶ 路線バス

所要時間: 約110分	
♀バス停: 名護バスターミナルより乗車	路線バスのりかえ
120 名護西空港線 (15～30分間隔) ♀バス停: 大謝名下車	所要時間: 約15分
	♀バス停: 大謝名より乗車
	27 屋慶名(やけな)線 (15～30分間隔) ♀バス停: 長田下車、徒歩約7分

選抜試験に関するお問い合わせ先

沖縄国際大学入試センター

〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目6番1号
 TEL.098-893-8945 FAX.098-893-3271
<https://www.okiu.ac.jp/graduate/admission>
 e-mail : entchr@okiu.ac.jp

